

共同訴訟人ニ對スル判決カ衝突スル場合ニ於テモ之レ唯相手方ニ於テ一時執行ヲナス能ハサルニ止マ
 リ其衝突スル者カ登記上ノ利害關係ヲ脱シタル場合ニ於テハ判決ニ基キ其他ノ者ニ對シ其執行ヲ爲ス
 ニ容易ナレハナリ之ヲ要スルニ本件ヲ以テ民事訴訟法第五十條第一項ニ該當スル訴訟ナリト主張スル
 上告人ノ論旨ハ其前提ニ於テ法律ヲ誤解シタルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ本件ハ原告タ
 ル被上告人ニ於テ登記簿上其所有ニ係ル本訴建物ノ存在スル土地ノ表示ニ錯誤アリトシ土地ノ所有者
 タル上告人澤田榮次郎土地抵當權者タル足立太三郎森田次三郎門田角太郎土地賃借人福井市之助及ヒ
 建物賃借人澤田藤次郎ノ六名ヲ共同被告トシテ本訴建物所在地ノ表示ニ錯誤アルコトヲ確認シ且之ニ
 關スル更正登記申請ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ求ムルモノナルコトハ本案訴訟記録ニ徴シテ洵ニ明
 白ナリ右訴旨ニ從ヘハ本案共同被告タル上告人ハ均シク更正登記ニ付キ登記上利害關係ヲ有スル者ナ
 ルカ故ニ各上告人ヲシテ均シク登記簿上本訴建物所在地ノ表示ニ錯誤アルコトヲ確認シ且之ニ關スル
 更正登記申請ニ必要ナル手續ヲ爲サシムルニ非サレハ全然本訴ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルモノナリ
 換言スレハ共同訴訟人中ノ一人ニ對シ敗訴ノ判決ヲ得ルニ於テハ他ノ共同訴訟人ニ對シ前項錯誤ヲ確
 認シ且之ニ關スル更正登記申請ニ必要ナル手續ヲ爲サシムヘキ勝訴ノ判決ヲ得ルモ原告タル被上告人
 ハ更正登記申請ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ全然本訴ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルモノナリ何トナレハ
 更正登記ニ付キ利害關係ヲ有スル者アルニ於テハ其總テノ利害關係者ノ承諾アルニ非サレハ更正登記

申請ヲ爲スヲ得サルコトハ不動産登記法第六十四條及ヒ第五十六條ノ規定スル所ナレハナリ然ラハ則
 チ本案訴訟ニ係ル權利關係ハ各當事者ニ對シ同一趣旨ノ判決ヲ爲スニ非サレハ訴訟ノ目的ヲ達スルコ
 トヲ得サルモノナルカ故ニ本案訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得何トナレ
 ハ同條ノ所謂總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キモノトハ訴訟ノ目
 的タル權利關係カ其性質ニ因リテ各當事者ニ對シ同一趣旨ノ判決ヲ爲スニ非サレハ訴訟ノ目的ヲ達ス
 ルコトヲ得サルモノヲ謂フモノナレハナリ既ニ本案訴訟ニ係ル權利關係ヲ以テ各當事者ニ對シテ合一
 ニノミ確定ス可キモノナリトスル以上ハ同條ノ規定ニ從ヒ共同訴訟人中期間ヲ懈怠シタル者ハ之レヲ
 懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シ懈怠者ニ對シテハ呼出ヲ爲シ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハ
 ルコトヲ得セシムヘキハ當然ナルニ原院ハ本案訴訟ニ係ル權利關係ヲ以テ合一ニノミ確定スヘキモノ
 ニアラストシ控訴期間ヲ懈怠シタル者ニ對シ呼出ヲ爲サス單ニ控訴期間ヲ懈怠セサル者ノミヲ呼出シ
 本案ヲ審理判決シタルハ同條ノ規定ヲ不法ニ適用セサルモノニシテ原院ニ於ケル訴訟手續全部及ヒ其
 判決ハ共ニ破毀ノ原由アルモノトス被上告人ハ本院明治三十八年(オ)第二百六十七號書入登記取消請
 求事件ノ判決ヲ援用シ以テ本案訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ該當セサル旨主張スルモ右判決ハ登記義
 務者數人アル場合ニ於テハ其全部ヲ共同被告トスルト將ク其一部ノミヲ被告トスルトハ登記權利者タ
 ル原告ノ自由ニシテ不動産登記法ハ其全部ヲ共同被告トスヘキコトヲ強制スルモノニアラサル旨ヲ判

定シタルモノニ過キス然ルニ本案ハ更正登記権利者タル原告ニ於テ既ニ更正登記ニ利害關係ヲ有スル者全部ヲ共同被告トシタルモノニシテ而モ前顯説明ノ如ク各當事者ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係ハ合一ニノミ確定スヘク各自ニ對シ箇箇別別ニ確定スルコトヲ許ササルモノナレハ二者全ク場合ヲ異ニスルハ多言ヲ俟タサル所ナリ要スルニ被告ノ論旨ハ法律カ共同訴訟ヲ爲スヘキコトヲ強制スル場合例之ハ主參加ノ訴(民事訴訟法第五十一條)第三者カ提起スル婚姻ノ無效若クハ取消ノ訴(人事訴訟手續法第二條)第三者カ提起スル養子縁組ノ無效若クハ取消ノ訴(人事訴訟手續法第二條)當事者ニ對シテ合一ニノミ確定スヘキ場合トヲ混同シタルモノナレハ右判決ヲ援用シテ論スル所ハ何等ノ價值ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項同第四百四十八條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

○後見人任設身分登記事件ノ決定ニ對スル抗告ノ件

明治四十一年(ク)第五十二號
明治四十一年五月二十日第一民事部決定

○決定要旨

一 身分登記ニ關シ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル抗告ハ戶籍法第二百三條以下ノ規定ニ從フヘキモノニシテ當然非訟事件手續法ヲ適用スヘキモノニ非ス

一 戶籍吏ノ爲シタル身分登記ヲ不當トシテ區裁判所ニ抗告ヲ爲シ同裁判所ノ決定ヲ受ケタル以上ハ其決定ニ對シ一回限り更ニ地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ同裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告人ノ何人タルト將タ如何ナル理由ヲ生シタルトヲ問ハス抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

原 審 東京控訴院

抗告人 土屋爲次郎 訴訟代理人 (江木末繁) 次郎 外一名

右後見人任設身分登記事件ニ付東京控訴院カ明治四十一年四月九日抗告ヲ不適法トシテ棄却シタル決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルニ依リ當院ハ決定スルコト左ノ如シ

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

戶籍吏ノ處分ニ對スル抗告○戶籍法第二百八條ノ旨趣

理由

按スルニ身分登記ニ關シ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル抗告ハ戶籍法第二百三條以下ノ規定ニ從フヘキモノニシテ非訟事件手續法ヲ當然適用スヘキモノニアラス而シテ戶籍法第二百八條ニ依レハ裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク其手續ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノナルヲ以テ本件ノ如ク戶籍吏ノ爲シタル後見人就職ノ登記ヲ不當トシ之ニ對シテ區裁判所ニ抗告ヲ爲シ同裁判所ノ決定ヲ受ケタル上ハ其決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トシテ一回限り更ニ地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ同裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告人ノ何人タルト又如何ナル理由ヲ生シタルトテ問ハス抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス然レハ本件ニ付抗告人カ原院並ニ當院ニ抗告ヲ爲シタルハ不適用ナリトス依テ民事訴訟法第四百六十三條ニ從ヒ主文ノ決定ヲ與フルモノナリ

○損害賠償請求ノ件

明治四十一年五月二十五日第二民事部判決

○判決要旨

一 民法第七百二十四條前段ノ消滅時效ハ被害者カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノニシテ其不法行為ヲ知リタル時ノ何時ナルヤハ問フ所ニ非ス

(參照) 不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ(民法第七百二十四條)

第一審 岡山地方裁判所 第二審 廣島控訴院

上告人 田中常次郎 訴訟代理人 吉井濱治郎

被上告人 小合正隆 訴訟代理人 牧野充安

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付廣島控訴院カ明治四十年十月二十九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理由

不法行為ニ因ル損害賠償ノ時效起算點

上告理由第一點ハ原判決ハ其理由中第二爭點ニ關スル説明トシテ左ノ如キ理由ヲ付シタリ第二爭點ニ付控訴人ハ控訴人ニ於テ被控訴人ノ主張ノ行為ヲ爲シタリトスルモ本訴請求權ハ既ニ時效ニ依リテ消滅シタリト云フモ被控訴人ノ本訴請求ハ明治三十五年十一月中控訴人カ擅ニ被控訴人ノ所有ニ係ル本訴株券ヲ他ヘ擔保トシテ差入レタル結果擔保流トナリテ他人ノ所有ニ歸シタル事實ニ基因スルモノナレハ其損害ノ生シタルハ擔保流トナリタル日即チ明治三十七年五月六日ニシテ同日ヨリ本訴提起ノ日ナル明治四十年三月十二日迄ニ三年ヲ經過スヘキ筈ナク又不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過セサルコトハ論ナキヲ以テ控訴人ノ此抗辯ハ理由ナシ然レ共本訴原告タル被上告人ハ上告人即チ被告ノ不法行為ヲ原因トシテ出訴セルモノナルコト記録上誠ニ明白ナルカ故ニ被上告人カ上告人ノ不法行為ヲ知りタル時即チ上告人カ被上告人ニ無斷入質シタルコトヲ被上告人カ知りタリト主張スル日ヨリ時效進行スヘキモノナルニ前記理由ノ如ク擔保流レト爲リタル日ヨリ時效ノ進行ヲ起算シテ上告人ノ時效抗辯ヲ排斥シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レスト云ヒ」第四點ハ原審第二ノ爭點タル時效ノ抗辯ニ對シ原裁判所ハ其時效ノ起算點ヲ不法行為ニ依リ損害ノ生シタル時トセラレタルモ其不當ナルハ上告理由第一點ニ論セシ所ニシテ即チ時效ノ起算點ハ被害者ニ於テ不法行為ヲ知りタルトキヨリ三年又ハ行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過スルニ依リテ完成スルモノナレハ苟モ行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過セサルモノナル以上ハ不法行為ヲ被害者ニ於テ知りタル時ハ何時ナルヤヲ判斷シ依テ以テ時效ニ罹レルヤ否ヤヲ決セサル

可カラズ然ルニ原裁判ニハ此重要ナル爭點ヲ判定セス漫然損害ノ生シタルトキヨリ起算セルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ原院ハ本訴不法行為ニ因ル損害ハ明治三十七年五月六日本訴株券三十枚ノ擔保流トナリタルトキ始メテ生シタルモノト認メ其以前ニ在リテ上告人カ該株券ヲ擔保トシテ他ニ差入レタルトキ生シタルモノト認メサリシコト原判文上洵ニ明白ナリ而シテ被害者タル被上告人カ加害者タル上告人ニ對シ本訴ヲ提起シタルハ明治四十年三月十二日ナルコトハ本件記録ニ徴シテ是亦明確タリ左スレハ被上告人カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ三年ヲ經過セサル間ニ於テ本訴ヲ提起シタルモノナルコトハ言ヲ俟タスシテ明カナルヲ以テ原院ニ於テ被上告人ノ本訴請求權ハ三年ノ時効ニ因リ消滅シタルモノニアラスト判定シタルハ其當ヲ得タルモノニシテ本論旨ハ共ニ其理由ナキモノトス何トナレハ民法第七百二十四條ニ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ストアリテ本論旨ノ如ク被害者カ不法行為ヲ知りタルトキヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リ消滅ストアラサレハナリ

上告理由第二點ハ本件ニ付キ上告人カ被上告人ノ株式會社山陽商業銀行ニ對スル金五百圓ノ債務殘額金三百圓ヲ被上告人ニ代リテ辨濟シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナリ而シテ該債務ニ付テハ上告人ハ保證人ニシテ辨濟期限ヲ經過スルモ主債務者タル被上告人ニ於テ辨濟ヲ爲ササルニ依リ上告人ニ於テ代テ辨濟シタルモノナレハ該辨濟ノ有效ナルハ明ナリ今假ニ上告人ニ於テ係爭株券ニ付處分ノ權限

ナク擅ニ他へ擔保ニ差入レ質流レトナリタル爲メ被告人ニ於テ損害賠償ノ權アリトスルモ其擔保物全部ノ價格ニ付キ賠償ヲ求ムルハ不法ナリ何トナレハ被告人ハ原告人ニ於テ被告ノ債務ヲ有效ニ辨濟アリシ爲メ正ニ其部分ニ付キ利益ヲ享受セル者ナリ而シテ此享受セル利益ハ後ニ原告人ニ於テ不法ノ行為アリトスルモ消滅スルモノニアラス果シテ然ラハ原告人ノ不法行為アリシ爲メ被告ノ現實ニ被ムリシ損害ハ擔保物全部ノ價格ニアラスシテ不法行為ヲナスニ要セシ資金却テ被害者ノ利得トナル譯合ナレハ此利得ヲ引去タルモノヲ以テ現實ノ損害ト云ハサル可カラス若シ然ラストセハ被告原告人ハ不法行為ヲ受ケシ爲メ却テ不當ニ利得スルニ至ル豈ニ斯ノ如キ理アラシヤ然ルニ原裁判所ハ此法理ヲ無視シ過當ナル被告原告人ノ要求ヲ是認セラレタル不法アリ凡ソ不法行為ニ基ク損害賠償ノ請求權ハ權利侵反ト損害トノ間ニ因果關係アルコトヲ要ス換言セハ權利侵反ナカリセハ被ルコトアラザリシ利益ナラサル可カラス而シテ此利益ハ被害者ト利益トノ主觀的ニ依リテ認定スヘキガ目的物自體ノ客觀的價值ニ依ルヘキヤハ決シテ事實ノ問題ニアラスシテ法律ノ解釋問題ニ屬ス可キナリ而シテ原告人ハ不法行為ニ基ク賠償請求權ノ存スル損害ナルモノハ被害者ト被害者ノ有セシ利益トノ主觀的關係ニ依リテ認定セサル可カラサルモノト信スルモノナリ而シテ本件損害ノ原因タル有價證券カ金六百四十五圓ノ市價ヲ有セシコトハ爭ヒ無キ所ナルモ又該有價證券ヲ原告人カ不法行為ヲ爲シタリト主張スル當時ニ於テ被告原告人ニ於テ金三百圓ノ擔保ニ差入レアルコト並ニ該有價證券ヲ原告人ニ於テ三百圓

ヲ支拂ヒテ擔保物ヲ引出シタルコトモ亦爭ナキ所ニシテ原判決ニ於テモ明カニ之レヲ認ムル所ナリ果シテ然ラハ本件有價證券自體ノ價格六百四十五圓ナリトスルモ被告原告人ト有價證券トノ主觀的關係ニ依レハ被告原告人ハ正ニ三百四十五圓ノ利益ヲ有スルモノト云ハサル可カラス何トナレハ被告原告人ニ於テ該有價證券ヲ引出サントスルニモ又代位辨濟者タル原告人ヨリ取戻サントスルニモ自己ノ債務タル三百圓ノ辨濟ヲ爲シタル上ナラサル可カラス依是觀是上原告人ニシテ本件有價證券ヲ他ニ擔保ニ差入レサリントスルモ其當時ニ於テ被告原告人ハ目的物ニ對シテ三百四十五圓ノ利益ヲ有スル而已ナレハ原告人ノ行為ニ基因シテ喪失シタル利益ハ以上ノモノナラサル可カラス果シテ然ラハ原裁判所ニ於テ原告人ニ賠償ヲ命スヘキモノトセハ宜シク此額ニ依ラサル可カラス然ルニ其事ナク本件有價證券ノ客觀的價值ヲ標準トシテ過當ニ賠償ヲ命シタル原判決ハ損害認定ノ法律上ノ標準ヲ誤リタルモノニシテ明カニ擬律ノ錯誤アルモノトスト云フニ在レトモ◎原告人ハ原院ニ於テ本訴請求額六百四十五圓ヨリ原告人カ本訴株券ヲ引出スニ當リ株式會社山陽商業銀行ニ辨濟シタル金三百圓ヲ控除スヘキモノナリト主張シタル形跡アルナシ而シテ右金三百圓ノ辨濟ハ果シテ被告原告人ノ利益トナリタルヤ否ハ事實ノ問題ニシテ法律ノ問題ニアラス又被告原告人カ本訴株券ニ付キ金三百四十五圓ノ利益ヲ有スルノミニシテ金六百四十五圓ノ利益ヲ有セサルモノナルヤ否ハ是亦事實問題ニシテ法律ノ問題ニアラス而シテ以上ノ事實問題ハ原院ニ提出セラレタルモノニモアラス左スレハ原院ニ於テ原告人カ被告原告人ノ所有ニシテ

不法行為ニ因ル損害賠償ノ時效起算點

時價六百四十五圓ノ株券ヲ擅ニ他ニ擔保ニ差入レ之ヲ擔保流ト爲シ被上告人ヲシテ其所有權ヲ喪失セシメタル事實ヲ認メ而シテ上告人ニ對シ其不法行為ニ因リ滅失セシメタル株券ノ時價ニ相當スル金六百四十五圓ヲ被上告人ニ賠償スヘシト言渡シタルハ其當ヲ得タルモノニシテ本論旨ハ原院ニ提出セサル事項又ハ同事實問題ヲ揭來リテ原判決ヲ非難攻撃スルモノナレハ共ニ上告適法ノ理由トナラス

上告理由第三點ハ原裁判所ハ其判決理由中事實摘示ノ部竝ニ説明ノ部ニ於テ等シク「擅ニ山陽商業銀行ヨリ擔保物件ヲ引出シ云云」ト記載セラレ明カニ擔保物件ヲ引出シタル行為ヲ不法トセラレタルモ第二點ニ論スル如ク上告人カ被上告人ノ債務ヲ辨濟シタルヲ有效トスル以上ハ擔保物件ヲ差入レタル債務ハ完済セラレタルモノナレハ債權者ニ於テ敢テ是ヲ占有スルノ必要ナク保證人ニシテ辨濟者タル資格ヲ有スル上告人カ債權者ヨリ擔保物ノ交付ヲ受クルハ毫モ不法ニアラス要ハ後ニ此擔保物ヲ更ニ擔保ニ差入レタルハ不法ナルヤ否ヤノ點ニアリトス然ルニ該行為ヲ以テ不法行為ナリト斷定セラレタル原裁判ハ擬律ニ錯誤アルモノトスト云フニ在リ

○依テ原判文ヲ審按スルニ原院ハ上告人カ擅ニ本訴株券ヲ株式會社山陽商業銀行ヨリ引出シタル行為ヲ以テ不法行為ト爲シタルニアラスシテ擅ニ該株券ヲ他ニ擔保ト爲シ之ヲ擔保流ト爲シタル行為ヲ以テ不法行為トシタルモノナルコト原判文ノ全趣旨ニ徴シテ毫モ疑ヲ容レズ左スレハ本論旨ハ原判旨ニ副ハサルモノナレハ上告適法ノ理由トナラス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ノ規定ニ從ヒ主文ノ

如ク判決スルモノナリ

○約束手形金請求ノ件

明治四十一年(オ)第百五十一號
明治四十一年五月二十六日第一民事部判決

○判決要旨

一 商法第四百六十二條ハ支拂拒絕證書作成期間經過ノ後手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ノ隨伴シタル權利ニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサル趣意ヲ明カニシタルモノニシテ即チ如上ノ被裏書人ニ對シテハ同第四百四十條ノ適用アラサルコトヲ示シタルニ外ナラス(判旨第二點)

(參照) 支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ(商法第四百六十二條)

手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ商法第四百六十二條ノ解釋ニ抗辯方法ノ範圍

得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス(商法第四百四十條)

一 被請求者ハ其權利ヲ防衛センカ爲メニ縱令矛盾相容レサル主張ト雖モ抗辯方法トシテ同時ニ之ヲ提出スルコトヲ妨ケス(判旨第三點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 株式会社八十四銀行

右代表者 中澤彦吉 訴訟代理人 岩岡伊代治

被上告人 鈴木藤三郎

右當事者間ノ約束手形金請求事件ニ付東京控訴院カ明治四十一年三月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ原裁判所ハ訴外株式會社工業銀行カ被上告人ニ對スル損害賠償ノ義務ハ擔保物返還義務ノ效力ナリトシ本件約束手形金ノ請求ヲ排斥シタルハ違法ノ裁判ナリ原院ハ上告人カ被上告人ノ特約ノ抗辯ニ對スル主張ヲ排斥スルニ當リ「控訴人(上告人以下同)ハ此處分ニ因リ被控訴人(被上

告人以下同)ハ擔保物ノ所有權ヲ喪失シタルカ故ニ擔保物ト引換ニアラサレハ手形金ノ請求ヲ爲ササルヘシトノ特約ハ既ニ其效力ヲ失ヒ手形金ハ全ク無條件ニテ支拂ハルヘキモノナリト論争スルモ其主張ハ採用スルコトヲ得ス何トナレハ該擔保物ハ手形金ト引換ニ返還スヘキ債務ヲ負ヒタル工業銀行カ丁酉銀行ニ再擔保ニ差入レ之ヲ取戻スコトヲ得サリシ爲メ競賣セラレタルモノニシテ其返還ノ不能ト爲リタルハ工業銀行ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基因スルモノナレハ工業銀行ハ被控訴人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノニシテ此損害ノ賠償義務ハ反對ノ意思表示ナキ限り手形金ノ支拂ト同時ニ履行セララルヘキモノナレハナリト説明シ尙ホ「而シテ此損害賠償ノ義務ハ即チ擔保物返還義務ノ效力ニ外ナラサレハ擔保物ノ返還義務カ質入裏書以前ニ發生シタル以上ハ擔保物ノ處分カ質入裏書以後ニ爲サレタル場合ニ於テモ尙被控訴人ハ控訴人ニ對シ前示同時履行ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘシ」云云ト判示セラレタリ前示判文前段ノ意義ヲ約言スルトキハ訴外工業銀行カ擔保物返還ノ債務ノ履行ヲ怠リタルタメ擔保物ハ處分セラレタルモノナレハ工業銀行ハ被上告人ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フモノニシテコノ損害賠償ノ義務ハ反對ノ意思表示ナキ限りハ手形金支拂ト同時ニ履行セララルヘキモノナリト云フニアリ然レトモ上告人ト雖モ擔保物ノ競賣セラレタルハ訴外工業銀行ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基クモノニアラスト主張スルモノニアラサレハ工業銀行カ被上告人ニ對シ損害賠償ノ責任アルコトハ毫モ之ヲ争ハス唯大ニ論争セル所ノモノハ其工業銀行カ被上告人ニ對スル損害賠償

ノ義務ノ履行ト同時ニアラサレハ質權ニ基ク上告人ノ手形金支拂ヲ請求スル能ハサルヤ否ヤニアリ故ニ此點ニ對シテハ明確ナル理由ヲ付シ裁判セサルヘカラサルニモ拘ハラヌ原院ハ前示ノ如ク「此損害ノ賠償義務ハ反對ノ意思表示ナキ限り手形金ノ支拂ト同時ニ履行セラルヘキモノナレハナリ」ト無造作ナル説明ヲ付シタルモ其何故ニ右ノ如キ推定ヲ爲シ得ルヤニ至リテハ更ニ之ヲ示サヌ其判示後段ニ至リテ僅ニ「此損害賠償ノ義務ハ即チ擔保物返還義務ノ效力ニ外ナラサレハ擔保物ノ返還義務ハ質入裏書以前ニ發生シタル以上ハ擔保物ノ處分カ質入裏書以後ニ爲サレタル場合ニ於テモ尙被控訴人ハ控訴人ニ對シ前示同時履行ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘシ」云云ト説明シテ損害賠償義務ヲ以テ擔保物返還義務ノ效力ナリト判示セラレタルモ其何故ニ斯ク判定スルヤヲ明カニセス漫然擔保物返還義務ノ效力ナリト斷定セラレタルハ其當ヲ得タルモノニアラス況ンヤ擔保物返還ノ義務ハ質入裏書以前ニ發生シタルモノニシテ右判文ニ示セル損害賠償義務（本件ニ於ケル損害賠償義務ニ二様アリ別項ニ於テ陳述スヘシ）ハ質權設定後擔保物ヲ賣却セラレタルニヨリ新ニ生シタル義務ニシテ別箇ノ債務ナルニ於テオヤ以上論スル所ノ如クナルヲ以テ原裁判ニハ重要ナル爭點ヲ判斷スルニ當リ其理由ヲ缺キタル違法アルモノナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ニハ被上告人ニ對シテ擔保物返還ノ義務ヲ負ヒタル工業銀行ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ其返還義務ノ履行不能ニ至リタル事實ヲ明截ニ判斷シアリ而シテ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シテ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ債權ノ效力トシテ民法第四百十五條ニ於テ明ニ規定スル所ナレハ原院カ前掲事實ノ認定ヲ爲シ以テ工業銀行ハ被上告人ニ對シテ損害賠償ノ責アル所以ノ理由ヲ明示シ而シテ此損害賠償ノ義務ハ即チ擔保物返還義務ノ效力ニ外ナラスト説示シタルハ理義極メテ明白ナリト謂フヘシ故ニ原判決ヲ指シテ理由ヲ付セサル不法アリト爲ス本論旨ハ前掲法條ヲ藐視スルモノニ非サレハ之ヲ知ラサル不明ニ坐スル譴ヲ免レヌ

上告趣旨ノ第二ハ原院ハ商法ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ抑モ爲替手形タルト約束手形タルトヲ問ハヌ苟モ法式ヲ具備セル手形ナルニ於テハ其性質トシテ其手形以外ノ契約ニ於ケル效果ヲ及ボサヌ縱令他ノ契約ニ於テ其意義ヲ變更シ金額ヲ増減シ又ハ其他ノ改訂等ヲナシタリトスルモ其情ヲ知ラサル第三者ニ對シテ其效力ナキハ多辯ヲ要セサル所ナリ而シテ本件ノ如キ期限後ノ裏書ニ係ル手形ニ對シテハ前項ノ議論ヲ全然應用スルコト能ハサルヘシト雖モ而モ約束手形ノ裏書トシテ法律ノ認許スル行爲ナルコトハ疑ヲ存スル餘地アラサルヘシ本件ニ最モ適切ナル商法第四百六十二條ニヨルニ「支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲナシタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」トアリ被上告人並ニ原院ハ右法條中「裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス」トアル文詞ヲ誤解シ本件ノ裏書人タル訴外工業銀行カ被上告人ニ對

シ有シタリシ擔保物返還義務履行ト同時ニ手形金ヲ支拂フヘシト云フ條件附ノ權利ノミ上告人ニ移轉シタルモノト解釋セラレタルハ違法ナリ元來支拂期限經過後ノ手形ヲ裏書讓渡スルコトヲ得セシムヘキヤ否ヤハ一ノ立法上ノ問題タリシニハ相違ナカリシト信ス何トナレハ期限後ノ手形ナレハ期限前ノ手形トハ大ニ其趣ヲ異ニシ不可成的ノ支拂期日ヲ有スル新し手形ノ觀ヲ呈シ支拂期日ハ裏書日附ノ前ニアリテ到底支拂期日ニ支拂ヲ爲スコト能ハサルヘキ手形ナレハ之レヲ手形トシテ手形法式ニヨル裏書讓渡ヲ許スヘキヤ否ヤハ實ニ一大問題タルノ價值ヲ有ス而シテ商法第四百六十二條ハ右ノ疑問ニ對シ解決ヲ與ヘタルモノニシテ期限後ノ手形ト雖モ裏書讓渡ヲ爲ス事ヲ規定セリ然レトモ其裏書讓受人ハ期限前ノ讓受ニアラサルヲ以テ自ラ支拂ノ呈示ヲ爲スコトヲ得ス又場合ニヨリテハ拒絕證書ノ作成モ爲スコトヲ得サルヘシ故ニ期限後ノ讓渡人ニシテ支拂ノ爲メニスル呈示モ亦拒絕證書ノ作成モ償還請求ノ通知モ遺憾ナク其手續ヲ盡シアリトスレハ其讓受人ハ他ノ裏書人及ヒ振出人ニ對シ支拂ナリ償還請求ナリ其望ム所ニ從ヒ之ヲ執行スルコトヲ得ヘキモ之ニ反スル場合ニハ單ニ振出人ニ對シ支拂ヲ請求スル權利ヲ有スルニ過キサルヘク從テ其以前ノ裏書人ハ手形法上期限後ノ讓渡人ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ以テ其讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘシト定メ前記第四百六十二條中「被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス」ト其法文ニ明記シタルモノナリ何人ト雖モ自己ノ有セサル權利ヲ他人ニ讓渡スル能ハサルヘシトハ法律ノ格言ナレハ前示ノ如ク「有シタル權利ノミヲ取得ス」ト記載セルハ聊其法

文當ヲ得サルモノノ如クナルモ其意義ニ至リテハ前述ノ如クニシテ而モ常ニ手形法式上ニ於ケル權利又ハ抗辯ナルコトヲ忘ルヘカラサルモノナリ故ニ讓渡ノ手續ニ於テモ簡單ナル裏書ニヨリテ之ヲ爲スヲ得ヘク決シテ民法上ノ手續ニヨリ其通知等ヲ要セサルハ勿論又手形法式上ノ缺點ニ基ク抗辯ノ外他ノ民法上ノ關係ニ基ク期限後ノ讓渡人ニ對スル主張又ハ抗辯ヲ提出シテ讓受人ニ對抗スル能ハサルハ當然ノ筋合ナリコレ實ニ手形法式上期限後ノ裏書讓渡ヲ認メラレタル結果ニシテ手形ノ性質上然ラサルヲ得サル理由ナリ然ルニ原院ハ前記法律ノ解釋ヲ誤リ期限後ノ讓渡人タル訴外工業銀行ヨリ被上告人ニ對スル特約即チ擔保物返還ト同時ニアラサレハ手形金ヲ支拂ハサル旨ノ契約ヲ以テ其之ヲ知ラス又認メサル上告人ニ對抗シ得ヘキモノトナシ上告人ノ請求ヲ棄却セラレタルハ違法ノ判決ナリ前段ニ陳述セル如ク商法第四百六十二條ニ於テ支拂期日後ノ手形ノ裏書讓渡ヲ認メラレタル以上ハ其手形ハ決シテ其性質ヲ變スルモノニアラサルヲ以テ其所持人タル上告人ハ即チ手形上ノ權利者ニシテ其請求ヲ爲スニ付本件被上告人ノ如キ抗辯ヲ呈出セラルヘキモノニアラス唯其拒絕證書作成期間後ノ裏書ナル行爲ノ當然ノ結果トシテ生スル事由ノ外期限前ノ被裏書人ト異ナル所ナシ故ニ被上告人ハ其債務ノ履行ニ付原債權者タル株式會社工業銀行ニ對抗シ得ヘカリシ事由アリトスルモ之ヲ以テ善意ノ讓受人タル上告人ニ對抗スヘカラサルハ實ニ明白ナル筋合ナリトス然ルニ原裁判所ハ「此ノ如ク滿期日以後ニ爲サレタル質入裏書ハ滿期日ニ於ケル裏書人ノ權利ヲ目的トシテ質權ヲ設定シタル效力ヲ生スルモ

ノナルカ故ニ手形債務者ハ裏書人ニ對シテ有スル抗辯ヲ以テ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得故ニ果シテ被控訴人主張ノ如ク該質入裏書以前ニ於テ手形債務者タル被控訴人ト裏書人タル株式會社工業銀行トノ間ニ擔保株券ノ返還ト同時ニアラザレハ手形金ノ請求ヲ爲ササルヘキ旨ノ特約存在シタリシトセハ被控訴人ハ此特約ヲ以テ控訴人ニ對抗スルコトヲ得サルヘカラス」云云ト説示セラレタルハ前段陳述ノ如ク商法第四百六十二條ノ解釋ヲ誤リタルノミナラス民法第四百七十二條ヲ無視シタル違法アルモ「トス右論旨ニ對シ疑キニ御院明治三十八年五月十三日約束手形金請求事件ニ付言渡サレタル判例アルコトハ上告人之ヲ知レリト雖モ上告人ハ前陳述ノ通りナル解釋ヲ信シテ止ム能ハサルモノナルニヨリ敢テ本件ニ於テ重テ御審議ヲ仰ク次第ニ候而シテ上告人ノ論據トスル所ハ前陳ノ如クナルモ殊ニ商法第四百六十二條中「裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス」ナル文字並ニ「其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」ナル文詞ニ御注意ヲ仰候上來陳述セル所ノ如ク現商法ニ於テ拒絕證書作成期間經過後ノ裏書ヲ許シタルニヨリ其裏書ニヨリ手形上ノ債權ヲ得タル被裏書人ハ他ノ裏書ニヨル所持人ト同様に權利ヲ得セシムヘキ等ナルモ其裏書ノ性質之ヲ許ササルヲ以テ被裏書人ハ自己ニ過失怠慢ナカラントスルモ呈示以後ノ手續ヲ爲スハ不可能ナルニヨリ裏書人ノ爲シタル結果ニ甘セサル可カラス故ニ前示ノ通り「裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス」ト規定シタルモノニシテ法文語弊アリト雖モ右様ノ解釋ヲ相當ト思量仕候而シテ常ニ忘ル可カラサルハ權利ノミ云云トアルハ手形上ノ權利ナルコトコ

判旨第二點

レナリト存候元來本規定ハ「ロエヌレル」氏起稿ノ草案ニモ之アルノミナラス同氏モ亦本論旨ノ如ク解釋致シ居リ候機記憶致シ居リ候御一考ヲ值スヘシト存候間御參照奉願候又本條ノ裏書ヲ以テ民法ニ於ケル債權讓渡ト同一様ノモノナラシメハ其末段ノ規定ハ空文タルヲ免レヌ然ルニ「裏書人ノ有シタル權利ノミ」云云「其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」云云等ノ規定ヲ設ケタルハ一般裏書ニ比シ其相違セル點即チ例外ヲ示シタルモノニシテ其他ハ總テ期限前ノ裏書ト異ナルコトナキヲ明カニシタルモノト確信致候ト云フニ在リ

然レトモ手形ノ債務者ハ其債權者ニ直接ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ除ク外商法手形編ニ規定ナキ事由ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サル（商法第四百四十條）規定ハ實ニ手形債權ノ生命ナリ而シテ同法第四百六十二條ニ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スト規定シタル所以ノモノハ他ナシ手形債務者カ如上裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ノ隨伴シタル權利ニ非サレハ被裏書人ハ取得スルコト能ハサル意ヲ明ニシタルモノニシテ即チ如上ノ被裏書人ニ對シテハ前掲第四百四十條ノ適用アラサルコトヲ示シタルニ外ナラス若シ夫否ラヌ本論旨ノ如ク此種ノ被裏書人ト雖モ手形普通ノ效力ヲ有スル權利ヲ取得スルコトヲ得ヘシトセハ第四百六十二條前半ノ規定中裏書人ノ有シタル權利ノミ云云ノ語無意義タルコトヲ免レヌ又本論旨中ニ民法第四百七十二條ヲ引キ云云スル所アレトモ手形債務ニ付テハ特別ノ規定アルヲ以テ前掲

民法ノ規定ハ適用スヘキ餘地ナシ之ヲ要スルニ本論旨ハ商法第四百六十二條ノ見解ヲ誤リ以テ原判決ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第三ハ上告人ハ原判決ニ所謂特約ナルモノハ絶對ニ之ヲ認メス然レトモ假リニ其存在ヲ事實ナリトシ又其抗辯カ法律上理由アリトスルモ上告人ハ之ニ對シ其所謂擔保物ト引替ヘニアラサレハ手形金ノミヲ請求セストノ被上告人ト工業銀行間ノ特約ハ擔保物ノ消滅ニヨリ不能ニ了リタルモノナレハ特約ナカリシ時ノ狀態ニ復シコノ時以後ハ何時ニテモ手形金ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘシトノ主張ヲナシタルコト原判文並ニ明治四十年十二月二十七日ノ口頭辯論調書及ヒ同日附ノ準備書面ニヨリテ明白ナル所ナリ而シテ右ノ主張ニ對シ被上告人ハ訴外工業銀行ハ擔保物返還ノ義務ヲ履行セザリシノミナラス其後其擔保物ハ丁酉銀行ノ賣却スル所トナリ被上告人ハ工業銀行ノ返還義務不履行ノ爲メニ其代價ニ相當スル損害ヲ被リタルニヨリ上告人ニ對シ相殺ヲ請求スルノ權利アリ因テ明治四十年六月中相殺ノ意思表示ヲナシタリ(被上告人ノ呈出シタル乙第五號證)故ニ上告人ノ本件手形上ノ權利ハ消滅シタルモノナリトノ主趣ヲ以テ抗爭セルコトモ亦原審辯論調書被上告人ノ原審ニ呈出セル準備書面乙第五號證等ニ依リテ一點ノ疑ヲ存セス右被上告人ノ相殺ノ抗辯ハ實ニ上告人ノ主張ニ對シ非常ナル利益ヲ與フルモノナリ(其乙第五號證ノ如キハ上告人ノ援用セル證據ニ屬ス)何トナレハ民法第五百五條ノ規定ニヨレハ「二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟

期ニアルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付相殺ニ因リテ其債務ヲ免カルルコトヲ得」トアリ故ニ相殺ヲ主張スルモノハ之レト同時ニ相手方ノ債權即チ自己ノ債務ノ辨濟期ニアルコトヲ認メタルモノト云ハサル可カラヌ何トナレハ自己ノ債務ノ辨濟期ニアルコトヲ認ムルニアラサレハ前記法條ニ因ル相殺ヲ爲スコト能ハサルハ明白ナル事由ナレハナリ果シテ然リトセハ被上告人ハ原審ニ於テ前陳特約ヲ主張スルニモ係ハラヌ一面ニ於テハ其債務ノ辨濟期ニ違シツツアルコトヲ認メタルモノナリ只ニ之ヲ認メタルノミナラス乙第五號證ヲ以テ之ヲ證明シタルモノナリ原院ハ右被上告人ノ抗辯ヲ同時履行ノ點ト相殺ノ點トノ二箇ナルカ如クニ說示シタルモ元來原判文ニ所謂同時履行ノ抗辯ト右相殺ノ抗辯トハ勢ヒ兩立スルコト能ハサル抗辯ナルヲ以テ被上告人ハ第一審及ヒ原審ノ始メニ於テハ同時履行ノ抗辯ノミヲ呈出シタルモ明治四十年六月十九日原審ノ口頭辯論中準備ノ爲メ續行ヲ求メ其辯論ヲ延期シ置キテ同月二十二日附書面(乙第五號證)ヲ以テ被上告人カ工業銀行ニ對スル損害金ノ一部ト本件ノ手形金ト相殺スル意思表示ヲ上告人ニ對シテ爲シ後明治四十年十二月二十七日ノ口頭辯論期日ニ至リ同日附準備書面ニ基キ相殺ノ抗辯ヲ申立タルモノナリ右準備書面ナルモノノ記載文言曖昧ニシテ要領ヲ知ルコト極メテ困難ナリト雖モ其全文ヲ觀察シ正當ニ解釋スルトキハ被上告人ハ同時履行ノ抗辯ヲ有シ居ルモ工業銀行ハ其特約期間ヲ經過シ返還義務ヲ果サス結局該株券ヲ賣却セラレタルモノナレハ右株式市價ニ相當スヘキ損害金ノ一部ト本件手形金ヲ相殺スヘキ權利ヲ有シタルモノナレハ上告人(控訴

人)ニ對シテモ亦右權利ヲ實行シ得ヘキモノナリ而シテ被告上告人ハ乙第五號證ノ如ク明治四十年六月二十二日上告人ニ對シ債權實行ノ通知ヲナシタルヲ以テ上告人ハ手形金請求ノ權利ナシト云フニアリテ其抗辯全ク相殺ノ一ニ歸シタルモノノ如シ而シテ其同時履行ノ抗辯ニ就キ陳述セル所ハ總テ相殺ノ權利ノ因テ生シタル原因ヲ説明シタルニ止マルモノナルコト前記準備書面ノ後段ニ於テ之ヲ知ルヲ得ヘシ以上ノ如ク同時履行ノ抗辯ト相殺ト抗辯トハ兩立スヘカラサルノミナラス被告上告人モ亦手形金ノ辨濟期ニ違シタルヲ認メ其主要ナル争點ハ同時履行ノ抗辯ヨリ轉化シ來リテ相殺ノ抗辯トナリタルモノナレハコノ點ニ對シ十分ノ審理ヲ遂ケ且ツ判斷ヲナシ其理由ヲ説明セサル可カラス本件ノ争點既ニ相殺ノ一點ニアリタルヲ以テ上告人ハ大ニ相殺ノ無效ヲ證明セント欲シ相手方ノ證據ヲ援用シ人證ノ申請ヲナシタリ然ルニ原院ハコノ重要ニシテ本件唯一ノ争點ヲ遺脱シ判決ヲナシタルハ違法ナリト云フニ在リ

然レトモ原審ニ於テ被告上告人カ相殺ヲ抗辯方法トシテ提出シタルハ擔保物ノ返還ト同時ニ非サレハ手形金支拂ノ義務ヲキ旨主張シタル主要ノ抗辯方法以外ニ假定論トシテ之ヲ主張シタルニ外ナラサルコトハ原判決ノ事實摘示及ヒ本論旨ニ援用シタル明治四十年十二月二十七日附被告上告人ノ準備書面ニ徴シテ極メテ明白ナリ抑モ被請求者ハ其權利ヲ防衛センカ爲メニハ縱令矛盾相容レサル主張ト雖モ抗辯方法トシテ同時ニ提出スルヲ妨ケサルコトハ既ニ本院ノ判例ニ於テモ是認スル所ナリ然リ而シテ原院

判旨第三點

ハ前掲被告上告人カ主張シタル主要ノ抗辯ヲ理由アルモノト認定シタルヲ以テ上告人ノ請求ヲ排斥スヘキ理由具足シタルコト自明ニシテ本論旨ハ原審ニ顯レタル事實ヲ無視シテ原判決ヲ非難スルモノト謂ハサルヲ得ス

上告趣旨ノ第四ハ以上陳述セル如ク被告上告人ハ原審ニ於テ擔保株券ト引替ニアラサレハ手形金ノ支拂ヲ爲サストノ特約ヲ訴外工業銀行ト爲シタリ然ルニ工業銀行ハ其特約期間内ニ返還義務ヲ履行セサル爲メ其株券ハ再擔保先ニテ競賣スル所トナリ被告上告人ハ其株式ノ市價ニ相當セル損害ヲ蒙ムリタルニヨリ其損害金ノ一部ト本件手形金ト相殺スヘキモノナルヲ以テ被告上告人ハ明治四十年六月二十二日上告人ニ對シ相殺ノ意思表示ヲナシタリ故ニ上告人ハ本件手形金ノ請求ノ權利ナシト抗爭シ其特約ノ存在並ニ特約ヨリ轉化シ來リタル相殺ヲ證明スル爲メ人證書證ヲ呈出シタル外他ノ抗辯證據方法等ヲ提出セザリシコト一件記録ニヨリ明白ナル所ナリ然ルニ原裁判所ハ損害賠償ハ擔保物返還義務ノ效力ナリ故ニ損害賠償ヲナスニアラサレハ手形金ノミノ請求ヲ爲スコトヲ得ストシ上告人ノ請求ヲ排斥シタリ然レトモ前記ノ如ク被告上告人ハ擔保物返還ト同時ニアラサレハ手形金ヲ支拂ハストノ特約アリトハ主張シタルトモ擔保物競賣ニヨリ生シタル損害金ト同時ニアラサレハ手形金ノ支拂ヲナサストノ特約アリトハ主張セサルノミナラス却テ其損害金請求ノ債權モ手形金支拂ノ債務モ共ニ其辨濟期ニ違シタルコトヲ認メ相殺ヲ主張シタルニモ係ハラス前記ノ如ク其判文ノ末段ニ於テ「損害金ノ賠償ヲ受クル

ニアラサレハ手形金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得サル旨ノ抗辯ハ前示ノ理由ニヨリ正當ナリト裁判ヲ
ナシタルハ當事者ノ申立テサル事由ニ依リ法益ヲ與ヘタル不法アルモノナリト云フニ在リ
然レトモ原判旨ハ歸スル所工業銀行ト被告人トノ間ニ存シタル擔保物ノ返還ト同時ニ非サレハ手形
金ノ請求ヲ爲ササルヘキ旨ノ特約ハ上告人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノト説示シタル趣旨ニ外ナラサ
レハ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第五ハ原審ニ於ケル被告上告人ノ抗辯ニヨルトキハ被告上告人カ訴外工業銀行ニ對スル損害賠
償ノ權利ニ二種アルモノノ如シ其第一ハ明治三十五年一月二十日迄ニ擔保物ヲ返還セサルタメニ生シ
タル損害金ニシテ其第二ハ明治三十五年四月二十五日擔保物滅失ニヨリ其代價ヲ標準トセル損害金ナ
リ而シテ其第一ノ損害金ハ確定ノ權利ニアラス工業銀行カ被告上告人ニ對スル擔保物ヲ返還スルカ損害
賠償ヲナスカニ中其一ヲ履行セサル可カラサル債務ニシテ而カモ其選擇權ハ債權者タル被告上告人ニ存
ス(四十年十二月二十七日辯論調書中立證ノ部ニ於テ乙一、二、三號證ハ云云之ヲ返還セサルトキハ
損害賠償ハ勿論如何様ノ處分ヲ受タルモ異議ナキコトヲ約シタルコトヲ證ス)ルモ被告上告人ハ引繼キ
擔保物ノ返還ノミヲ請求シテ損害賠償ヲ求メス(原院モ亦コノ事實ヲ認メ上告人ノ反證ヲ許ササリシ
原判文中事實ノ摘示御參照ヲ乞フ)故ニ損害賠償其他何様ノ處分ヲ受タルモ異議ナキコトヲ約シタル
ニ係ハラヌ損害賠償ノ權利ハ會テ發生セス後明治三十五年四月二十五日右擔保物ヲ賣却(四十年十二

月二十七日辯論調書中「被控訴代理人明治三十五年四月二十五日係爭擔保物カ丁酉銀行ノ賣却スル所
トナリタルコトハ爭ハス」セラルル迄ハ同一ノ關係ヲ持續シ右擔保物滅失ト同時ニ前記第二ノ損害
賠償ノ權利發生シタルモノナリ此第二ノ賠償權ハ擔保物滅失ニヨリ新タニ生シタル權利ニシテ原判文
ニ所謂特約ニヨリテ生スルモノニアラス特約ナシト雖モ斯ル場合ニ於テハ當然發生スヘキ權利ナルコ
ト論ヲ竣タス上陳ノ如ク原審ニ於テハ渺ナクトモ前記二箇ノ損害賠償ノ問題トナリ居リタルコトハ上
告人ノ證人谷崎安太郎ノ證據調ノ申請書並ニ乙第五號證採用ノ主趣等ニ徴シ明白ナル所ナリ然ルニ原
判決ニ於テハ此損害賠償ノ義務ハ即チ擔保物返還義務ノ效力ニ外ナラスト判示スルノミニシテ其損害
賠償ノ義務ノ何レナルヤヲ示ササルハ理由ヲ欠キタル違法アリト云ハサルヲ得ス原判文掲クル所ニヨ
レハ「其返還不能ト爲リタルハ工業銀行ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基因スルモノナレハ工業銀行ハ被控訴
人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノニシテ」云云トアルニヨリ前示第二ノ
損害賠償ヲ指示シタルモノナリトセンカコレ前陳述セル如ク別段ナル理由ニ原因シ新タニ生シタル債
權ナレハコノ損害賠償義務ハ特約即チ擔保物返還義務ノ效力ナリト云フコトヲ得ス然ルニ前示ノ如キ
判定ヲナシタルハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト云ハサル可カラスト云フニ在リ
然レトモ本論旨ニ所謂二種ノ損害賠償ノ權利ハ均シク債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ニ外ナラス而シテ
第一點及ヒ前段ニ判示シタル理由ト對觀スルトキハ本論旨ハ上告ノ理由トナラサルコト自明ナルヘシ

上告趣旨ノ第六ハ被上告人ト訴外工業銀行トノ間ニ原判文ニ所謂特約ナルモノノ存スルヤ否ヤニ付テハ原院ノ職權ニ因テ認定セラルル所ニシテ上告人ノ容喙スルヲ得サル所ナリトス然レトモ原判文ニ於テモ被上告人カ本件約束手形金ニ對シ被上告人カ訴外工業銀行ニ對スル損害賠償ノ債權ニ基キ商法第四百六十二條ノ規定ニ從フ旨ヲ以テ相殺ノ意思表示ヲナシ相殺ヲ以テ本件請求ニ對抗セシコトハ是認セラルル所ナリ被上告人ノ抗辯此ノ如クニシテ原院ノ認メラルル事實又前ノ通りナリトスレハ被上告人ノ所謂同時履行ノ抗辯ハ勢ヒ消滅セリト云ハサル可カラス何トナレハ相殺ノ抗辯ハ相殺ハ相互ノ債務ノ辨濟期ニアルコトヲ認ムルノミニアラスシテ對當額迄ハ其債務ノ消滅ヲ主張スルモノナリ然ルニ原判文ニ所謂同時履行ノ抗辯ハ其債務ノ履行期ヲ認メサルノミナラス其債務ノ兩兩相存在スルコトヲ爭フモノナレハ二箇ノ抗辯兩立スルコトヲ得サルヤ明カナリ被上告人或ハ曰ハン相殺ノ抗辯ハ原審ニ於ケル假定說ナリト然レトモ相殺ノ抗辯ハ事實上ノ主張ニシテ法律上ノ議論ニアラス前者ハ損害賠償ノ義務存在シ之レト同時ニアラサレハ手形金支拂ノ義務ヲ要請セラルルコトナシト爭ヒ後者ハ相互ノ債務辨濟期ニアリ相殺ニヨリテ何レモ消滅シタリト云フ其兩立ス可カラサルヤ知ルヘキナリ其兩抗辯ノ性質右ノ如ク相容レサルノミナラス被上告人ノ原審ニ於ケル申立モ始メハ同時履行ノ抗辯ヲナシ後ハ相殺ノ抗辯ト變シ同時履行ノ抗辯ハ相殺ノ抗辯ノ因テ基ケル原因ノ説明タルニ過キサルコトナリタルコト本上告理由第三點ニ於テ詳細説明セル所ノ如シ故ニ原院ニ於ケル被上告人唯一ノ抗辯ハ相殺

ニアリタルコトモ亦多辯ヲ要セサル所ナリ然ルニ原判文ニ於テハ「被控訴人ハ擔保物ノ滅失ニ因リテ生シタル損害金ノ賠償ヲ目的トスル債權ヲ以テ本件手形上ノ權利ト相殺セリト主張スルモ此ノ如キハ控訴人ノ債權ノ優先的效力ヲ没却スルモノニシテ債權者タル控訴人ニ對抗スルコトヲ得サル所ナリ」云云ト說示シ被控訴人唯一ノ抗辯ヲ排斥シナカラ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ被上告人カ原審ニ於テ擔保物返還ト同時ニ非サレハ手形金支拂ノ義務ナキコトヲ終始主張シ相殺ノ抗辯ハ假定論トシテ提出シタルニ過キサルコトハ上來既ニ判示スル如クニシテ本論旨ハ自己ノ臆斷ヲ憑據ト爲シ以テ原院ノ專權ニ屬スル事實ノ判斷ヲ非難スルモノト謂ハサルヲ得ス

上告趣旨ノ第七ハ原院ハ原判文中ニ於テ被上告人ノ申立テサルニモ係ハラス「損害金ノ賠償ヲ受クルニアラサレハ手形金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得サル旨ノ抗辯ハ前示ノ理由ニヨリ正當ナリ」ト説明シテ上告人ニ不利益ノ判決ヲ與ヘ又「其返還ノ不能トナリタルハ工業銀行ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基因スルモノナレハ工業銀行ハ被控訴人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ負フモノニシテ此損害ノ賠償義務ハ反對ノ意思表示ナキ限り手形金ノ支拂ト同時ニ履行セラルヘキモノナレハナリ」云云ト判定セラレタルコトハ以上ニ於テ陳述セル所ノ如シ而シテ反對意思表示ナキ限り云云ト説明セラレタルモ既ニ詳述セル如ク相殺ノ抗辯ナルモノハ損害賠償ト同時履行ノ點ニ對シ反對ノ事實ヲ主張

スルモノナレハ之レヲ以テ反對ノ意思表示アリシモノト認メサル可カラス特ニ原判決自體ニ於テモ相殺ノ抗辯アリシコトヲ認メ居ラルルニモ係ハラヌ損害賠償義務ト同時履行ノ點ニ就キ反對ノ意思表示ナカリシモノト認メラレタルハ其矛盾ノ甚シキモノニシテ其理由ノ存スル所ヲ知ルニ苦ム又被上告人ハ擔保物ノ返還ヲ受クルニアラサレハ手形金ヲ支拂ハストノ特約アリト主張シタルノミニシテ損害金ト同時履行ノ抗辯ヲナシタルコトナキニモ拘ハラヌ其抗辯アリシモノノ如ク判文ニ掲ケ且ツコノ抗辯ヲ正當ナリト判定セラレタルハ共ニ理由ヲ缺ケル違法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得スト思量スト云フニ在リ

然レトモ原判旨ニ所謂反對ノ意思表示トハ損害賠償ニ關シテ擔保物返還ノ場合ト異ナリタル意思ノ表示ヲ指シタルニ外ナラサレハ本論旨ノ前半ハ原判旨ニ副ハサル非難タルコトヲ免レヌ又其後半ハ第四點ノ論旨ヲ再演スルニ外ナラサレハ其理由ナキコトハ復言ヲ俟タス
上來判示スル如ク上告論旨ハ一トシテ適法ノ理由アラサルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

〇衆議院議員選舉人名簿脱漏修正申立ニ對スル決定取消請求ノ件

明治四十一年(オ)第四十九號
明治四十一年五月二十六日第一民事部判決

〇判決要旨

一法令ニ於テ一定ノ期間内ニ申立ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限り其申立ハ期間内ニ當該官憲ニ到達スルコトヲ要ス
一衆議院議員ノ選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタル選舉人カ町村役場ヲ經由シテ郡長(北海道ニ在リテハ支廳長)ニ其申立書ヲ提出スル場合ニハ必スヤ法定ノ期間内ニ其郡長又ハ支廳長ニ到達スヘキ用意アルコトヲ要ス

原告 根室地方裁判所

被告 人 山口正 長

右指定代表者 畑田春秋

被上告人 植草昇三郎 訴訟代理人 木下佐太郎
外九名

一定ノ期間内ニ爲スヘキ申立〇衆議院議員選舉法第二十一條ニ依ル申立ノ提出

右當事者間ノ衆議院議員選舉人名簿脱漏修正申立ニ對スル決定取消請求事件ニ付根室地方裁判所カ明治四十年十二月二十七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事鈴木宗言ハ意見ヲ陳述シタリ

判 決

原判決ヲ破毀ス

被告ノ請求ヲ棄却ス

訴訟費用ハ總テ被告人之ヲ負擔スヘシ

理 由

上告ノ趣旨ハ衆議院議員選舉法第二十一條ニハ選舉人選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡(北海道ニ於テハ北海道廳支廳長)市長ニ申立ツルコトヲ得トアリ又同法第二十三條ニハ縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ストアリテ他ニ其申立書ヲ提出スヘキ手續ニ關シテハ何等規定スル所ナキヲ以テ其方法ハ本人自身ニ提出スルト郵便ニ依ルト將タ町村役場ヲ經由スルトハ敢テ問フ所ニアラスト雖モ其申立タル必ス縦覽期間内タルヲ要スルト同時ニ亦必ス支廳長ニ提出ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ若シ此場合ニ在リテ支廳長以外ノ

町村役場等ニ提出スルヲ以テ有效ナリトセハ明カニ之レカ規定ヲ要スルハ勿論本法ハ執行ノ嚴正ヲ期スル爲メ第十八條第十九條第二十條第二十四條第二十五條第二十六條等一期日若クハ期間ヲ規定シ居ルヲ以テ此ノ場合ニ於テモ亦町村役場等ヨリ支廳長ニ申立書ヲ差出スヘキ期間ノ規定ナカルヘカラス然ルニ選舉法第二十一條ニハ郡市長ニ云トシ又法第二十三條ニハ縦覽期限内ニ云トノミニテ他ニ是等ニ關シ何等規定スル所ナキヲ以テナリ然ルニ原判決ハ之ヲ北海道ニ於テハ支廳ト町村トハ數十里ヲ隔ツルコトアリ又ハ天變地異ノ爲メ旅行シ能ハサルコトアリ此等ノ場合ニ於テモ尙且縦覽期間内ニ直接申立書ヲ支廳ニ提出スルヲ要ストセハ或ハ申立ノ權利ヲ失ハシムルニ至ルヤモ知ルヘカラスレハ支廳長ニ對シ右申立ヲ爲スヘキハ固ヨリノコトナルモ書面ノ如キハ之ヲ町村役場ニ提出スルモ有效ナリト解釋スルヲ相當トストノ理由ヲ以テ上告人ノ爲シタル決定ヲ取消シタリ思フニ原判決ハ申立書ヲ町村役場ニ提出シタルハ支廳ヘ提出シタルト同様ナリトノ解釋ヲ採リタルモノナレトモ支廳ト町村役場トハ組織權限其他總テノ點ニ於テ異ナルノミナラス町村役場ハ此場合ニ於テ支廳ノ代理關係ニ立ツヘキモノニアラサルコトハ何等疑ナキ所ナリ即チ此場合ニ於テハ支廳ト町村役場トハ全然別箇ノモノニシテ何等關係ノ存スヘキニアラス斯ノ如ク全然別箇ノモノナルニ拘ハラス尙町村役場ヘ提出スルヲ以テ有效ナリトスルニ於テハ必ス支廳ト町村役場トノ關係ヲ詳述シ其何故ニ有效ナルヤヲ説明セサルヘカラス然ルニ原判決ハ之ニ關シ何等説明スル所ナクシテ漫然之ヲ町村役場ヘ提出スルモ有效ナリ

トセシハ甚タ不當ノ断定ナリ又原判決ノ如ク町村役場ニ提出スルヲ以テ有效ナリトセハ選舉法第二十四條一項ノ期間ノ計算モ亦町村役場ニ於テ受付ケタル日ヨリセサルヘカラサルヘシ想フニ法第二十四條一項二十日ノ期間ハ申立ノ理由及證據ヲ審査スル爲メ決定權ヲ有スル支廳長ニ與ヘシ所ノ期間ナルニ支廳長ノ全ク關知セサル町村役場ヘ受付タル日ヨリ計算スヘキモノトスルトキハ申立ノ效力ハ其受付ニ依リテ發生シタリトスルモ偶々天變地異若クハ其他ノ事情ノ爲メ支廳長ノ受理シタルハ該期間經過後ナリシトセハ支廳長ハ遂ニ之ヲ有效ニ決定スルヲ得ス隨テ申立ノ目的ヲ達シ得サルニ至ルニアラヌヤ既ニ支廳長ニ與エラレタル期間ナルニモ拘ラス支廳長カ未タ申立ノアリシコトヲモ知ラサル間ニ期間ヲ經過スルト云フカ如キハ特ニ明文ノ存セサル限リハ之ヲ認ムルコトヲ得ス若シ又町村役場ヘ提出スルモ有效ナリト解釋スルヲ相當トストハ其ノ方法如何ヲ問ハス申立書ヲ申立人ノ手許ヨリ發送スレハ足レリトノ趣旨トセハ假ニ縱覽期間ノ最終日タル十一月十九日ニ申立書ヲ發送シタルニ天變地異若クハ其ノ他ノ事情ノ爲メ十二月二日ニ支廳ニ到達シタリトスル場合ニ於テ支廳長ハ法第二十四條一項ノ期間ノ末日即チ十二月二十二日ニ名簿ニ登錄スヘキモノトノ決定ヲ爲シタルモノトセハ其結果如何法第二十七條一項ニ依レハ選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定シ其ノ確定シタル名簿ハ同條第二項ニ依リ確定判決書ニ依ルニアラサレハ修正スルコトヲ得ス又確定名簿ニ登錄セラレサルモノハ法第三十七條ニ依リ確定判決書ヲ所持スルニアラサレハ投票ヲ行フコトヲ得サルヲ以テ結局其決定ハ何等

效ナキニ了ルヘシ若シ法律ニ於テ斯ノ如キ場合アルコトヲ認ムルニ於テハ確定判決書ノ如ク名簿確定後ト雖モ修正又ハ投票シ得ルノ規定ヲ設クヘキ筈ナルニ此ノ規定ナキヲ以テ見レハ立法ノ精神ハ明ニ縱覽期間内ニ支廳長ニ申立書ヲ提出シ支廳長ハ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内即チ遅クモ十二月九日迄ニ決定シ其ノ決定ニ對スル修正ハ名簿確定前ニ爲サシムルノ法意タルヲ確ムルニ足ルヘシ又原判決ハ根室支廳ヨリ管内各町村長戸長ニ發シタル通牒ヲ敷衍スル所アリト雖モ該通牒タル支廳長ト町村長トノ間ニ於ケルモノニシテ被上告人等ノ羈束セラルル事由ナキモノトス以上何レノ點ヨリ論スルモ法第二十一條ノ申立ハ法第二十三條ニ依リ縱覽期間内ニ支廳長ニ申立ヲナササルヘカラサルモノナルニ原判決ハ之ヲ町村役場ニ提出スルモ有效ナリトシテ上告人ノ決定ヲ取消シ名簿ニ登錄スヘキモノトノ判決ヲ與ヘタルハ法律ヲ不當ニ適用シ法律ニ違背シタルモノトスト云フニ在リ

按スルニ本件ニ於テ衆議院議員選舉人名簿ノ縱覽期間ハ明治四十年十一月十九日ヲ以テ滿了シ而シテ被上告人カ脫漏發見ニ付修正ヲ求ムル申立書ヲ根室町役場ヘ提出シタルハ同日ナリト雖モ其書面ノ根室支廳ニ到達シタルハ同月二十二日ナリシコトハ共ニ原判決ニ因リテ確定シタル事實ナリ抑法令ニ於テ一定ノ期間内ニ申立ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限ハ申立ヲ處理裁斷スヘキ職責ヲ有スル官憲ニ其到達スルコト期間内ニ在ルコトヲ要ス何トナレハ若シ否ラズシテ期間内ニ當該官憲ニ到達セサル申立ヲ以テ適法ノモノトセンカ期間ヲ定メタル規定ノ效用阻碍セララルル恐アレハ

一定ノ期間内ニ爲スヘキ申立○衆議院議員選舉法第二十一條ニ依ル申立ノ提出

ナリ衆議院議員選舉法第二十一條及ヒ第二十三條ニ依レハ選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期間内ニ之ヲ郡市長（北海道ニ在リテハ支廳長）ニ申立ツルコトヲ得ル旨規定シタルニ止マリ其申立書ヲ町村役場ニ提出スルコトヲ得ヘキ規定アルコト無シ然レハ則チ申立人カ郡長又ハ支廳長ニ直接ニ申立ヲ爲サス其書面ヲ町村役場ヲ經由シテ郡長又ハ支廳長ニ提出セント欲セハ必スヤ法定ノ期間内ニ其郡長又ハ支廳長ニ到達スヘキ用意アルコトヲ要ス本件ハ原判文中ニ「甲第二號證根室支廳ノ通牒中云云若シ右ニ該當ノ申立アルトキハ町村長戸長ニ於テ尙嚴密ノ調査ヲナシ速ニ意見ヲ付シテ當廳ニ申立書ヲ送付スルヲ要ストアルモ右ノ趣旨ニ基キタルモノニ外ナラス」ト判示シタル所ニ由リテ之ヲ觀レハ被上告人カ申立書ヲ根室支廳長ニ直接ニ提出セスシテ根室町役場ニ提出シタルハ根室支廳ノ通牒ニ基因スルカ如シ然レトモ此ノ如キ通牒ハ法令ノ規定ヲ左右スヘキ效力ナキコト勿論ナルヲ以テ衆議院議員選舉法第二十一條ニ依ル申立ノ提出期間ヲ伸長スヘキ理由トナラス原裁判所ハ北海道ノ如キ支廳所在地ト町村トノ距離遠隔若クハ天變地異ニ因リ旅行不能ノ虞アル等ヲ理由トシテ町村役場ニ申立書ヲ提出シタルコト法定期間内ニ在ラハ有效ナリト解釋スルヲ相當ナリト判示シタルトモ是立法上ノ議論ヲ以テ法令ノ解釋ニ擬スルモノニシテ失當タルコトヲ免レス之ヲ要スルニ被上告人ノ申立ハ選舉人名簿縦覽期間經過シタル後上告人ニ到達シタルニ拘ハラヌ其根室町役場ニハ期間内ニ提出セラレタルヲ理由トシテ之ヲ適法視シタル原判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト謂ハサルヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項第四百五十一條第一號及ヒ第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

○預金支拂請求ノ件

明治四十一年（オ）第七十三號
明治四十一年五月三十日第一民事部判決

○判決要旨

一 債務者カ債權讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院
上告人 株式會社豐科銀行
右法定代理人 轟 亨 訴訟代理人 井澤美喜三郎
被上告人 武居甲之助

右當事者間ノ預金支拂請求事件ニ付東京控訴院カ明治四十一年三月十八日言渡シタル判決ニ對シ上告債權讓受人ニ對スル債務者ノ抗辯權

人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ第二審裁判所カ債權讓渡通知以後ニ讓渡人ニ對抗シ得ヘキ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得スト判決シタルハ民法第四百六十八條第二項ノ規定ヲ不當ニ本件ニ適用シタルモノト思料ス蓋シ被上告人カ訴外武居國吉ヨリ讓受ケタル上告銀行ニ對スル金一千二百圓ノ債權ハ明治三十七年二月十三日附ノ定期預金證書ニシテ其支拂期限ハ同年四月三十日ナリ而シテ上告銀行カ武居國吉ニ對スル金一千五百圓ノ債權ハ明治三十七年二月十三日附ノ約束手形ニシテ其滿期日ハ同年四月三十日ナリトス斯ノ如ク債權ノ成立及ヒ履行期日共ニ同一ナル場合ニ一方ノ當事者カ其債權ヲ他ニ讓渡シタルカ爲メ他ノ一方ノ當事者カ相殺ノ對抗抗辯ヲ爲スヲ得ストセハ法律ハ奸猾ナル債務者ヲ保護スルノ結果ヲ生シ正直ナル債權者ハ常ニ法律ノ犧牲ニ供セラルル筋合ナリ是法律ノ精神ニ非スト確信スト云フニ在リ

然レトモ民法第四百六十八條第三項ニハ明ニ「債務者ハ其通知ヲ受タルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得」トアリ而シテ上告人ノ主張ニ依ルモ本訴債權千二百圓ノ支

拂期及ヒ武居國吉ノ手形金千五百圓ノ支拂期ハ共ニ明治三十七年四月三十日ニシテ上告人カ債權讓渡ノ通知ヲ受ケタルハ明治三十七年三月十四日ナルコト原院ノ確定スル事實ナレハ讓渡通知以前ニ於テハ雙方ノ債務未タ辨濟期ニ在ラズシテ相殺ニ適セザリシモノタルコト明確ナリ故ニ原院ハ讓渡ノ通知後相殺ニ適シタルニセヨ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ストシ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルモノナレハ毫モ不法ニ非スシテ本論旨ハ上告ノ理由タラス

其第二點ハ原審ニ於テハ本件ニ於ケル主要ノ争點タル訴外武居國吉ヨリ上告人ニ對シ債權讓渡ノ通知ヲ爲シタル時期ノ判斷ニ關シ同審證人武居國吉ノ證言ヲ採用シ其通知カ明治三十七年三月十四日爲サレタルモノト認定セラレタリ然レトモ武居國吉ハ甲第一號證ニヨル預金債權ヲ被上告人ニ讓渡シタル者ナルヲ以テ其讓受人タル被上告人ノ請求カ目的ヲ達スルト否トハ同人ノ責任ニ直接影響アルモノナルヲ以テ同人ハ本件訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル地位ニ在ルモノトス然ルニ原院カ右證人武居國吉ニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問シタルハ訴訟手續ニ違背シタルモノナルニ其證言ヲ採リテ以テ裁判ノ資料ニ供シタルハ違法タルヲ免レスト云フニ在リ

然レトモ假令武居國吉ハ本訴ノ成績ニ直接利害ノ關係ヲ有スルモノナルニセヨ原院カ同人ヲ證人トシ宣誓ノ上訊問セルニ對シ上告人ハ當時何等ノ異議ヲ述ヘス即チ責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ今更之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ

其第三點ハ被上告人ハ第一審裁判所ノ明治三十九年七月十日ノ口頭辯論ニ於テ裁判長ノ問ニ對シ甲第一號證ノ債權讓渡ノ通知ヲ爲シタルハ三十七年五月十三日ナリト主張セリ而シテ上告人ノ第一審ノ主張事實ニ依ル時ハ上告人カ乙第一號證ノ手形債權ト甲第一號ノ預金債務ト相殺シタルハ明治三十七年四月三十日ニシテ訴外武居國吉カ上告人ニ對シ爲シタル債權讓渡ノ通知ヨリ以前ナル事實ヲ主張シタル事自ラ明カナリ故ニ被上告人ハ此點ニ關シ上告人主張事實ノ眞實ナル事ヲ認メ裁判上ノ自白ヲ爲シタルモノナリト云フ可シ而シテ裁判上ノ自白ハ第二審ニ於テモ其效力ヲ有スルモノナルカ故ニ裁判所ニ於テ之ニ異リタル認定ヲ爲ス能ハサルニ拘ハラヌ第二審裁判所ハ無用ノ證據調ヲ採用シタル上被上告人ノ變更シタル申立ヲ認容シ明治三十七年三月十四日債權讓渡ノ通知ノ行ハレタルモノナリト判定セラレタルハ民事訴訟法第四百十八條ノ規定ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云ハサル可カラスト云フニ在リ

然レトモ被上告人カ債權讓渡ノ通知ハ讓渡ノ當日即チ明治三十七年三月十四日ニ爲シタルモ念ノ爲メ同年五月十三日重ネテ通知シタル旨第一審ニ於テモ主張シタルコト第一審ノ第五回口頭辯論調書ニ徴シ明白ナリ故ニ假令被上告人ニ於テ明治三十七年四月三十日上告人ヨリ相殺ノ意思表示アリタル事實ヲ明カニ争ハサリシニセヨ其相殺ノ意思表示カ債權讓渡ノ通知以前ニ爲サレタルコトヲ自白シタルモノト看做スヘキニ非ヌ又被上告人カ原院ニ於テ第一審ニ於ケル申立ヲ變更シタルニモ非サレハ本論旨

モ亦上告ノ理由タラス

上來説明ノ如ク本上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○山林所有權並境界確認請求ノ件

明治四十一年(オ)第五百五十二號
明治四十一年六月一日第二民事部判決

○判決要旨

一判決主文ハ如何ナル範圍ニ於テ當事者ノ申立ヲ認容シ若クハ排斥シタルヤヲ表示スレハ足り其範圍ヲ指示スル爲メニハ必スシモ主文自體ニ於テスルコトヲ要セス或ハ記録中ニ存スル他ノ文書ヲ引用スルモ妨ナキモノトス

第一審 青森地方裁判所 第二審 宮城控訴院

上告人 小山内國之助 訴訟代理人 梅村 大

被上告人 山形村大字袋

右代表者 木村慶太郎

右當事者間ノ山林所有權並ニ境界確認請求事件ニ付宮城控訴院カ明治四十一年一月二十七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

判決主文ノ内容

上告理由第一點ハ現今ノ制度ニ於テハ土地ハ地番號ニヨリテ一定ノ區域ヲ有シ他ノ地番號ヲ有スル土地ト別箇獨立ノ存在ヲ有スルモノトセラルル換言スレハ一定ノ土地ト他ノ土地トハ各其地番號ノ異ナルニヨリテ各獨立ノ一箇體ヲ爲スモノトセラルルカ故ニ或地番ヲ有スル一定土地ヲ賣買スルニ當リソレト地番ヲ異ニスル他ノ土地ノ一部ヲ其土地ノ一部ナリトシテ之ヲ賣買スルモ目的物ノ錯誤ニヨリ其賣買ハ無効行爲ニシテ其錯誤ヲ生シタル土地ノ所有權ノ移轉スヘキ理由ナキハ民法第九十五條ニヨリテ明カナリ本件ニアリテ被上告人カ青森大林區署ヨリ特賣拂下ヲ受ケタルハ富岡二百一十一番水源山ニシテ青岩澤七番ノ國有林ニアラス即チ富岡二百一十一番水源山ハ地盤ハ官有ナルモ立木ハ被上告人ノ所有ニ屬シ被上告人カ水源涵養ノ目的ニヨリ養林ノ爲メ永代地上權ヲ有スル土地ナルヲ以テ國有林野法第八條第四號ニ基キ被上告人ニ特賣拂下ケラレタルモノナルハ原判決カ援用シタル乙第五號證以下ニヨリテ明カナリ故ニ特賣拂下當事者ノ意思ハ被上告人ト何等ノ緣故ナキ青岩澤七番國有林ノ拂下ニアラスシテ富岡二百一十一番水源山ノ土地ノミヲ拂下クルニアリタルヤ疑ヒナシサレハ青森大林區署カ富岡二百一十一番ノ拂下トシテ誤リテ青岩澤七番ノ土地一部ヲモ拂下ケタリトスルモ其青岩澤七番ノ拂下土地ニ付キテハ所有權移轉ノ生スヘキ理由ナキヤ明クシ故ニ上告人主張ノ如ク係争地即チ第一審檢證圖黃色部分ノ土地ニシテ青岩澤七番ナリトセハ被上告人カ假リニ拂下ヲ受ケタル土地ナリトスルモ其拂下タルヤ無効行爲ニシテ所有權移轉ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス故ニ第一審檢證圖黃色部分ノ土地

カ拂下ニヨリテ被上告人ニ其所有權移轉ノ效果ヲ生スヘキヤ否ヤハ先ツ青岩澤七番ト富岡二百一十一番トノ境界ヲ定メ係争地ハ富岡二百一十一番ノ範圍ナルヤ將タ又青岩澤七番ノ範圍ナルヤヲ判斷シタル後ニアラサレハ之ヲ知ルコトヲ得サルニ拘ラス原判決ハコノ點ヲ審究セスシテ漫然富岡二百一十一番水源山實測反別百二十一町二反二十九歩ノ特賣拂下ヲ得タル地域ハ第一審檢證圖黃色ノ部分ヲ包含スルヲ以テ右黃色ノ部分ハ控訴人(被上告人)カ既ニ特賣ニヨリ所有權ヲ取得シタルモノナリトナシタルハ重要ナル爭點ヲ遺脱シ且法則ノ適用ヲ誤リタル違法ノ裁判ナリ」同第二點ハ富岡二百一十一番ハ被上告人所有ノ水源山ニシテ水源山ハ官地民木即チ地盤ハ官有地ナルモ其生立木ハ被上告人所有ニ屬スルモノナルハ當事者間爭ナキノミナラス乙第五號證以下第九號證第十號證等ニヨリテ明カナルハ勿論山林制度上疑ヲ容レサル所ナリ而シテ青森大林區署カ明治三十六年中被上告人ハ拂下ケタルハ被上告人カ水源涵養ノ目的ヲ以テ養林ノ爲メ地上權ヲ有スル土地即チ富岡二百一十一番ノ地盤ノミニシテ其立木ハ特賣拂下ノ範圍外ナルハ亦當事者間爭ヒナキノミナラス乙第五號證以下第十號證ニヨリテ明カナリ故ニ第一審檢證圖黃色ノ部分ノ土地ニシテ上告人主張ノ如ク富岡二百一十一番ノ範圍ニアラスシテ青岩澤七番ノ範圍ニ屬スヘキモノトセハ被上告人カ特賣拂下處分ニヨリテ第一審檢證圖黃色ノ部分ノ土地ノ所有權ヲ取得シタリトスルモ其拂下ノ範圍外ナル立木ノ所有權ハ被上告人ヘ移轉スヘキ筋合ナク却テ其下戻ヲ得タル上告人ノ所有ニノミ屬スヘキ當然ノ事理ナリ故ニ本件ニアリテハ立木ト地盤トハ各別

ノ關係ヲ有スル結果先ツ第一ニ富岡二百十一番水源山ト青岩澤七番トノ境界ヲ定メ第一審檢證圖黃色部分ノ土地カ富岡二百十一番水源山ノ範圍ニシテ立木ハ元ヨリ被上告人ノ所有ナルカ又青岩澤七番ノ範圍ニシテ元國有林ニ屬シ上告人ニ下戻サレタルモノナルヤヲ判斷セサルヘカラス換言スレハ青森大林區署カ爲シタル特賣拂下ハ富岡二百十一番水源山ノ土地ノミニ限ルニハ第一審檢證圖黃色部分ノ土地カ特賣拂下ノ範圍ニ包含セラレタリトスルモ其立木ハ拂下ノ範圍外ナルヲ以テ之レヲ以テ被上告人ノ所有ナリトスルニハ先ツ第一審檢證圖黃色部分ノ土地ハ富岡二百十一番ノ境界範圍ナル事實ヲ確定セサルヘカラス然ルニ原判決ハコノ點ヲ度外ニ措キ第一審檢證圖黃色部分ノ土地ト立木トヲ區別セシテ總テ拂下ニヨリテ被上告人カ所有權ヲ得タルモノトナシタルハ第一證據ニ違背シ不當ニ事實ヲ確定シ第二最モ重要ナル爭點ヲ遺脱シタル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決ハ其理由ノ前段ニ於テ上告人カ農商務大臣ヨリ下戻ノ許可ヲ受ケタル字青岩澤七番ノ山林ト被上告人カ青森大林區署ヨリ特賣拂下ヲ得タル字富岡二百十一番ノ山林トハ當事者ノ主張各其範圍ニ抵觸スル所アルモ其地域ニ付前者ハ第一審檢證圖面紫色ノ部分ニ相當シ後者ハ同圖面黃色ノ部分ニ相當スル地域ヲ包含スルモノナリトシ其後段ニ至リテ字青岩澤七番山林二町四反歩トシテ登記簿上ニ表示セラレタル所ノモノハ同圖面紫色ノ部分ニ相當スル土地ヲ表示スヘキ司法行政上ノ名稱ナリト斷定シタルモノナレハ則チ第一審檢證圖ニ黃紫ノ兩色ヲ以テ區分シタル箇所ヲ以テ前記山林ノ境界ナリト定メ其黃

色ノ部分ニ相當スル地域ハ字富岡二百十一番水源山ノ範圍ニ屬シ被上告人カ特賣拂下ヲ得タル部分ナリト斷定シタルモノナルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ

同第三點ハ原判決ハ上告人カ明治三十六年十二月十七日農商務大臣ヨリ青岩澤七番トシテ係争地全部即チ第一審檢證圖黃色部分ヲモ包含スル地域ノ下戻許可ヲ得其下戻許可ノ指令ニ基キ青岩澤七番ノ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタル事實ヲ認定シタリサレハ上告人カ本件係争地ニ對シテ所有權移轉登記ヲ爲シタルハ農商務大臣ノ下戻指令ニ基キ當該官廳カ不動產登記法ノ規定ニヨリ囑託登記ヲ爲シタルモノニ係ルヲ以テ其下戻指令ニシテ係争地全部ヲ包含スルモノトセハ之ヲ原因トシテ爲シタル登記モ亦其下戻指令ヲ受ケタル地域ノ登記トシテ有效タルヘキハ勿論其登記ヲ爲シタル地所ノ區域モ亦農商務大臣カ下戻シタル區域全範圍ニ及フハ當然ノ筋合ナリ然ルニ原判決ハ一面ニ於テ青岩澤七番トシテ係争地全部ノ下戻ヲ得タル事實ヲ認メ乍ラ一面其下戻指令ニ基キ當該官廳カ囑託登記シタル青岩澤七番ノ登記カ係争地全部ニ及ハサルモノト爲シタルハ登記原因ヲ誤認シタルモノニシテ法則ノ適用ヲ誤リタル裁判ナリト信スレ同第四點ハ原判決ハ上告人カ下戻ヲ得タル青岩澤七番ノ區域カ係争地全部ヲ包含スルモノナル事實ヲ認メ其後段ニ於テ青岩澤七番トシテノ土地ノ表示ハ第一審檢證圖紫色ノ部分ノ土地ノ表示ナリトナシタルモ土地ハ其地番號ニヨリテ一定區域ヲ有シ他ノ地番號ヲ有スル土地ト各別ノ存在ヲ有スルモノナルヲ以テ青岩澤七番ニシテ原判決カ認メタル如ク係争地全部ヲ包含スルモノトセ

ハ青岩澤七番ナル土地表示モ亦係争地全部ヲ包含スヘキモノトナササルヘカラス然ルニ原判決ハ青岩澤七番トシテ二箇ノ相容レサル事實ヲ認定シタルハ少ナクモ理由齟齬ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○既ニ前論旨ニ對シ説明シタルカ如ク原判決ハ登記簿上字青岩澤七番ト表示シアル部分ハ上告人カ下戻ヲ受ケタル部分乃チ第一審檢證圖面紫色ノ箇所ナリトシ本件係争地全部ノ下戻ヲ受ケタル事實ヲ認定シタルコトナケレハ毫モ下戻ヲ得タル部分ト登記セラレタル部分トニ齟齬スル所アルナシ從テ本論旨モ亦理由ナシ

同第五點ハ上告人カ青岩澤七番トシテ係争地全部ノ下戻許可ヲ得其許可指令ニ基キ所有權移轉登記ヲ爲シアル事實ハ原判決ノ認ムル所ナリ抑モ下戻法ニヨル土地ノ下戻ハ改租當時ニ於ケル所有又ハ分收ノ事實ヲ根據トスルモノニシテ當該官廳ハ其處分前下戻許可ノ土地ニ對シテ申請者ニ於テ所有又ハ分收ノ事實アリタルヤ否ヤヲ調査審按シ其處分ヲ爲シタルモノナルヲ以テ本件青岩澤七番トシテ係争地全部ノ下戻ヲ得タル上告人ノ權利ノ範圍ハ下戻許可指令ニヨリテ定メラルヘキモノ也故ニ下戻許可ノ指令ニシテ青岩澤七番トシテ係争地全部ヲ下戻サレタルモノトセハ其權利ハ其土地番號如何ニ拘ラス下戻地ノ全部ニ及フヘク下戻許可指令ヲ原因トスル登記モ亦下戻地ノ登記トシテ效力ヲ有スヘキヤ當然ナリ故ニ青岩澤七番ナル土地ノ表示カ舊弘前藩以來第一審檢證圖面紫色ノ部分ヲ表示スル司法行政上ノ名稱ナリトスルモノニヨリテ下戻指令ニ基ク所有權移轉登記ノ效力ヲ左右セラルヘキ筋合ナキモノ

トセサルヘカラス若シ假リニ原判決ノ如ク上告人カ農商務大臣ヨリ青岩澤七番トシテ係争地全部ノ下戻許可ヲ得其下戻指令ニ基ク登記ヲ爲シタルニ拘ラス所謂舊弘前藩制以來ノ司法行政上ノ名稱ノ爲メ其登記カ效力ヲ左右制限セラルルモノトスルモ其理由ヲ説明セサルヘカラス原判決ハコノ點ノ説明ヲ爲ササルハ法則ノ適用ヲ誤リタル乎又ハ理由不備ノ不法ナルモノ也ト信スト云フニ在ルモ○其前段ノ論旨ハ前論旨ニ對スル説明ニヨリ明ナルヘク其後段ノ論旨ニ付テハ原判決ハ字青岩澤七番ナル地番ハ舊弘前藩制以來司法行政上ノ名稱トシテ第一審檢證圖面紫色ノ部分ニ相當スル土地ノ表示ナリトシ登記簿上土地ノ表示トシテ適法ナリトセルモノナレハ本論旨ハ其理由ナシ

同第六點ハ原判決ニヨレハ「新乙第一號證乃至第六號證ヲ綜合スレハ字青岩澤七番山林二町四反歩ナル土地表示ハ控訴人主張ノ如ク舊弘前藩制以來原審第一回檢證圖面紫色ノ部分ニ相當スル地面ヲ表示スヘキ司法行政上ノ名稱ナルコトヲ推知シ得ヘク」云云トアリ舊弘前藩制以來青岩澤七番ナル行政上ノ名稱ハ第一審檢證圖面紫色ノ部分ニ相當スル土地ノ表示ナリト認メ其認定資料トシテ新乙第一號證乃至第六號證ヲ援用セリト雖モ同號證全部ニヨルモ舊弘前藩制カ藩制ヲ以テ青岩澤七番ナル行政上ノ名稱ヲ第一審檢證圖面紫色ノ部分ノ土地ニ付シタル證憑ハ勿論青岩澤七番ナル名稱ノ存在ヲ認ムヘキモノナシ且ツ弘前藩當時ニ在リテハ山林ノ地番又反別等ヲ定メタルコトナク只タ澤名ニヨリテ山林ノ區別ヲ爲シタルニ止マルハ甲第九號證第十一號證等ニヨリテ明カニシテ土地ノ地番ヲ定メ又反別ヲ測定シタ

ルハ明治九年地租改正ニ初マリ其以前ニ於テ地番反別等ヲ定メタル制度ノ存在シタルコトナキニ拘ハ
 ラス原判決ハ青岩澤七番ナル名稱ヲ以テ舊弘前藩制以來ノ司法行政上ノ名稱ナリトシタルハ證據ニ違
 背シテ不當ニ事實ヲ確定シ且舊藩制ハ勿論地租改正ノ法律制度ヲ無視シタル不法ノ甚シキ裁判也ト信
 ス同第七點ハ證據ノ採否ハ事實裁判所ノ專權ニ屬スルモ事實裁判所ハ既ニ證明シタル事實ヲ證明セ
 ストナシ又證明セサル事實ヲ證明シタリトナスコトヲ得ス故ニ事實裁判所ニシテ既ニ證明シタル事實
 ヲ證明セストナスニ於テハ是亦上告理由トナスヲ得ヘキヤ勿論ナリ本件判決ヲ見ルニ「新乙第一號證
 以下ニヨレハ字青岩澤七番山林二町四反歩ナル土地表示ハ云云被控訴人ノ提出援用シタル各號證ニ據
 テハ係争地全部カ字青岩澤七番山林二町四反歩トシテ表示セラルヘキモノナルコトヲ認メ得サルカ故
 ニ云云」ト説示シ上告人カ提出援用シタル甲各號證ニヨリテハ青岩澤七番ノ名稱カ係争地全部ヲ表示
 スルモノナルコトヲ證明スルコト能ハストナスカ如キモ土地ニ地番號ヲ付シ反別ヲ測定シタルハ明治
 九年地租改正當時ニ初マリ其以前ニハ是等制度ナカリシカ故ニ一定土地ノ地番號ヲ表示スル區域ハ地
 租改正ノ爲ニ作製セラレタル改租繪圖ヲ基本トシテ定ムヘキモノナルヲ以テ上告人ハ原審ニ於テ甲第
 八號證トシテ係争地ノ改租繪圖ヲ提出シ之ヲ第一審檢證圖ト對照シテ青岩澤七番ナル名稱ハ係争地全
 部ノ土地ヲ表示スルモノナルコトヲ證明シタリ而シテ地番號ノ表示スル土地ノ區域ハ改租圖ニヨル外
 之ヲ定ムヘキモノナキハ地租改正制度上疑モナク裁判所モ亦改租圖ニヨリテ土地表示ノ如何ヲ判斷セ

サルヘカヲサルモノナルニ拘ラス漫然上告人ノ提出シタル甲各號證ニヨリテハ係争地全部カ字青岩澤
 七番トシテ表示セラルヘキモノト認メ得ストナシタルハ證明シタル事實ヲ證明セストナスモノニシテ
 不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在ルモ○是原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ニ付キ論難ヲ試
 ムルニ過キス以テ上告適法ノ理由トスルニ足ラス

同第八點ハ判決ハ其主文ニ於テ獨立シテ執行シ得ヘキモノナラサルヘカラス故ニ判決主文ニシテ主文
 ノミニヨリテ係争事實ヲ決スルモノニアラスシテ他ノ文書ト相俟ツニアラサレハ執行スルコト能ハサ
 ルカ如キハ判決主文トシテ不適法ナリト云ハサルヘカラス本件判決主文ニヨレハ「青岩澤七番ノ區域
 ハ東ハ原審第一回檢證圖B道ニ當ル部分並ニB道ノ屈折點(ヘ)ヨリB道線ヲ青岩澤マテ延長シタル直
 線ニ當ル部分ヲ境トシ」トアリテ第一審第一回檢證圖B道又(ヘ)點等ヲ境界トスヘキモノナリトナス
 モ原判決ニハ第一審第一回檢證圖ノ添附ナク原判決自體ニ於テハB道ノ何處ナルヤ又(ヘ)點ノ何處ナ
 ルヤ之ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ原判決ノミニヨリテ獨立シテ境界確定ノ目的ヲ達スルコト能ハス即
 チ原判決主文ノミニヨリテハ判決ハ何等效力ヲ有セサルカ故ニ結局不適法ノ判決ナリトセサルヘカラ
 スト信スト云フニ在リ○然レトモ判決主文ハ如何ナル範圍ニ於テ當事者ノ申立ヲ認容シ若クハ排斥シ
 タルヤヲ表示スルヲ以テ足り其範圍ヲ指示スルカ爲メニハ必スシモ主文自體ニ於テスルヲ要セス或ハ
 記録中ニ存スル他ノ文書ヲ引用スルモ妨ナキモノナレハ原判決カ第一審檢證圖面ニ表示スル符號ヲ援

執達吏ノ過失ト債權者ノ責任○差押物保存ニ關スル執達吏ノ職責

用シ、以テ土地ノ境界區域ヲ言顯ハシタルハ、毫モ不法ナリトスルヲ得ス、從テ本論旨モ亦其理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條ニ則リ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○損害要償ノ件 明治四十一年(丙)第五號
明治四十二年六月二日第一民事部判決

○判決要旨

一 債權者ノ委任ニ因リテ強制執行ヲ爲ス執達吏ハ民法上ノ受任者ト
異ナリ債權者ノ代理人トシテ之ヲ爲スモノニ非スシテ法令ノ規定
ニ從ヒ司法機關トシテ其職務ヲ行フモノトス故ニ執行上執達吏ニ
過失アルモ債權者ハ其責ヲ分ツヘキモノニ非ス(判旨第一點)
一 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスル場合ニ在テハ執達吏ハ
適當ノ方法ヲ以テ之カ處分ヲ爲スヘキ職責ヲ有ス從テ其保存方法
宜キヲ得サルカ爲メニ損害ヲ生シタルトキハ執達吏第一ニ其責ニ
任スヘキモノニシテ債權者ニ對シ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(同

上

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

上告人 藤原勘次郎 訴訟代理人 高木益太郎
花井卓藏

被告 平松喜三郎 訴訟代理人 原 嘉道
外一名

右當事者間ノ損害要償事件ニ付長崎控訴院カ明治四十年十月二十一日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨ
リ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告論旨第一點ハ本訴第一ノ損害金タル一千六百八十三圓請求ノ當否ニ付原判決ハ其理由中ニ「第一
金額ノ請求ニ付之ヲ按スルニ本訴ハ被告(被告上告人)等ノ債權執行行為即チ有體動産差押ヲ不當ナリ
トシ(中略)不法行為ヲ請求ノ原因トナスモノナリ而シテ原告(上告人)代理人ノ主張スル所ニ依レハ
差押物件ハ差押後解放ニ至ルマテ執達吏ノ占有スル所ト爲リタルノミナラス其處分ニ依リ第三者ノ保
管中ニ腐蝕シ又ハ毀損シタリト云フニ在リ然レトモ右差押ノ當否ト保管ノ適否トハ何等ノ關係ナク且

執達吏ノ過失ト債權者ノ責任○差押物保存ニ關スル執達吏ノ職責

(中略)保管ノ方法宜キヲ得ハ之ヲ防クニ難カラスシテ(中略)被告等ノ差押ヲ不法行爲ト假定スルモ右保管中ニ生シタル腐蝕毀損ノ損害ノ原因タルヘキ關係ナシト説示シテ上告人ノ請求カ不當ナルコトヲ判定セラレタレトモ我民事訴訟法上動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲シ其差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲スヲ原則トス而シテ差押ノ爲メ執達吏ノ占有ニ歸シタル物件ハ自ラ之ヲ保管スヘク實際ニ於テ執達吏カ職務上自ラ保管スルニ代ヘテ更ニ之ヲ第三者ノ保管ニ委シタリトスルモ法律上ハ尙且之ヲ執達吏ノ保管ト看做ササルヲ得サルヘク從テ又執達吏ノ占有ニ依ル差押處分ナリト謂フヲ得ヘシ加之元來動産ヲ目的トスル強制執行手續ハ差押競賣及配當ノ三段階ニ區別サレ別ニ保管ナル特殊ノ手續ヲ認メサレハ此點ヨリ觀察スルモ保管ハ即チ差押ノ一部ニシテ第三者ノ保管行爲ハ又即チ執達吏ノ差押處分ノ一面ト看ルヲ得ヘキコト洵ニ明白ナリ然レハ原判決ノ如ク差押ト保管トヲ全然別箇ノ關係ニ分離シテ之ヲ觀察スルハ我強制執行ノ法旨ニ反スルコト甚シキモノト謂ハサルヲ得ス既ニ然リトセハ本件ノ如ク其保管ノ方法宜シキヲ得スシテ爲メニ差押物ヲ腐蝕セシメタル如キハ即チ差押自體カ當ヲ失スル所以ニシテ而カモ斯ル失當ノ差押處分ハ現實ニ被告上告人ノ不法ナル執行ノ委任ニ基クモノナレハ此不法ナル委任ト失當ナル差押ニ因テ生シタル損害トノ間ニハ因果ノ關係存在スルコト疑ヲ容ルルノ餘地ナケレハ執行ノ主體タル被告上告人ハ請求ノ金額ヲ賠償スヘキ責任ヲ有スルコト當然ノ筋合ナルニ拘ハラヌ原判決カ反對ノ見解ヲ以テ却テ上告人ノ請求ヲ拒斥セラレタルハ強制執行並ニ

不法行爲ノ法則ニ違背シテ損害賠償ノ責任ヲ否定セラレタルノ不法アルモノト信スト云ヒ」第三點ハ債權者カ執達吏ニ委任シテ財産ノ差押ヲ爲サシメ其差押ノ爲メニ他人ニ損害ヲ生セシメタル場合ニ於テ債權者ニ損害賠償ノ責任アリヤ否ヤハ執達吏ノ差押物件ノ保管ノ當否ニアラスシテ其差押ハ債權者ノ不法行爲ニ基クヤ否ヤニ在リ從テ差押ニシテ債權者ノ不法行爲ニ基クモノトセハ執達吏ノ不注意ノ爲メニ生シタル損害ト雖モ債權者ハ尙之ヲ賠償スルノ責任アルヤ勿論トス何トナレハ不法ノ差押ナカリセハ執達吏ノ不注意ナル保管ニ基ク損害ヲモ生セサルヘキ筋合ナレハナリ本件ハ上告人ニ於テ被告上告人カ執達吏ヲシテ上告人ノ有體動産ヲ差押ヘシメタルハ被告上告人ノ故意又ハ過失ニ出テタルモノニシテ被告上告人ノ不法行爲ニ因リ損害ヲ生シタルモノト主張シタルコトハ第一二審判決ノ明示スル所ナリ左レハ原裁判所ニ於テハ先決問題トシテ被告上告人ノ爲シタル差押ノ不法行爲ニ基クヤ否ヤヲ解決シ果シテ被告上告人ノ不法行爲ニ基クモノトセハ執達吏ノ保管中ニ生シタル損害ト雖モ被告上告人ニ對シテ其賠償ヲ命セサルヘカラス然ルニ原判決ハ此當然ノ事理ヲ顛倒シ差押ト保管トハ何等ノ因果關係ヲ有セサルモノノ如ク誤解シ被告上告人ノ差押ヲ不法行爲ナリト假定スルモ保管中ニ生シタル損害ノ原因タル可キ關係ナシト判示シ上告人ノ請求ヲ斥ケタルハ(一)爭點ヲ遺脱シテ判決ヲ與ヘタル不法アルト共ニ(二)不法行爲ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リタル不法アリト信ス(三十八年(オ)第三八二號同年十一月一日御院第二民事部判例引用)ト云ヒ」第四點ハ債權者ノ差押ノ當否ト差押物件保管ノ爲メニ生シタ

執達吏ノ過失ト債權者ノ責任○差押物保存ニ關スル執達吏ノ職責

判旨第一點

ル損害トハ全然何等ノ關係ナシトスルニハ差押物件保管ノ爲メニ生シタル損害ハ執達吏カ故ラニ上告人ニ蒙ラシメタル損害ナリトノ事實ヲ認定セサルヘカラス然ルニ原判決ハ此等ノ判定ヲ爲スコトナク債權者ノ差押ノ當否ト其差押ニ基ク物件保管ノ適否トハ全然別箇ノ問題ナリトシ上告人ノ請求ヲ斥ケタルハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ

然レトモ債權者ノ委任ニ因リ強制執行ヲ爲ス執達吏ハ民法上ノ受任者ト異リ債權者ノ代理人トシテ之ヲ爲スニ非スシテ法令ノ規定ニ從ヒ司法機關トシテ職務ヲ行フモノナルカエハ執達吏ノ執行上ノ過失ニ付債權者ハ其責ヲ分ツヘキモノニアラス(明治三十七年オ第四〇三號同年十二月二十三日言渡並ニ明治三十八年オ第一一五號同年十一月二十四日言渡判例)殊ニ差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスル場合ニ於テ適當ノ方法ヲ於テ之レカ處分ヲ爲スヘキハ執達吏ノ職責ナルコト民事訴訟法第五百七十一條ニ明定スル所ニシテ保存ノ方法宜シキヲ得サルカ爲メニ生シタル損害ニ付テハ民事訴訟法第五百三十二條ニ從ヒ執達吏第一ニ其責ニ任スヘク債權者ニ對シ之レカ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス(明治三十一年オ第一八五號同三十二年三月三十一日言渡並ニ明治三十一年オ第二六五號同三十二年六月十四日言渡判例)故ニ保存ノ方法宜シキヲ得サルカ爲メニ生シタル損害ノ如キハ債權者ノ行爲ト法律上因果ノ關係ナキモノト謂ハサル可カラス抑上告人カ本件ニ於テ賠償ヲ請求スル一千六百八十三圓ノ損害ハ原院ニ於テ確定スル所ニ依レハ差押ニ因リ當然ノ結果トシテ生シタルモノニ非スシテ偶保管ノ方法

宜シキヲ得ザリシニ因リ生シタルモノナリ此ヲ以テ原院ハ上告人ノ損害ヲ被上告人等ノ差押ニ原因スルモノニ非ストシ仍テ上告人ノ請求ヲ排斥シタルニ外ナラス上告人ノ援用スル本院判例ハ差押ニ因リ當然ノ結果トシテ損害ノ生シタル場合ニ關スルモノナレハ之ニ依リ本件ノ場合ヲ論ス可カラサルヤ勿論ニシテ原判決ハ論旨ノ如キ不法アルモノニアラス

其第二點ハ本訴第二ノ損害金タル三千四百二十九圓三十四錢ハ上告人カ被上告人ノ爲メニ炭山用坑内水場蒸汽釜大小二箇ヲ差押ヘラレ排水ヲ爲スコトヲ得スシテ坑道水没シ天井墜落土石堆積等ニ因リ閉塞シタル爲メニ蒙ルリタル損害ノ額ニシテ即チ上告人カ被上告人ノ不法行爲ニ因リ現ニ被ムリタル損害ノ賠償ヲ請求スルモノナルコトハ明治三十九年五月十五日ノ原審第一回口頭辯論調書(記録第二一〇號)中上告人ノ代理人カ裁判長ノ問ニ對シ「第二ノ損害ハ原狀ニ復舊セシムルヲ要スル費用ヲ積算シタルモノニシテ其費用ヲ請求スル趣旨ニ非スシテ現ニ生セル損害ノ標準ト爲シタルモノナリ之ヲ要スルニ本訴ノ損害ハ得ヘキ利益ヲ請求スルニ非スシテ失ヒタル損害ヲ要求スルモノナリ」トノ申立ヲ爲シ又同四十年十月十四日ノ口頭辯論調書(記録第四三四丁)ニモ「當審第一回ノ口頭辯論ニ於テ陳述シタル通請求數額タケノ費用ヲ要スル損害ヲ受ケタリトノ申立ヲ爲シタル旨ノ記載アルニ徴シ明確ナル所トス然ラハ原審ニ於テハ本件損害ノ原因カ果シテ被上告人ノ不法行爲ニアルヤ及其損害ノ數額カ果シテ正實ナルヤノ兩點ヲ審判セラルルニ止ルヘク又之ニ止ルヲ要スル筋合ナルニ拘ラス原判決ハ

「水没閉塞シタル坑道ニシテ若シ之ヲ保存スルトモ何等ノ利益ナルモノナキトキハ被告等ノ不法行為ニ因リテ水没閉塞シタルトテ原告ニ損害ヲ來タササルヲ以テ從テ被告(被上告人)等ニ賠償ノ義務ヲ生セサルコト論ヲ待タス(中略)採炭跡並ニ未採掘地域ニハ果シテ石炭存在シテ之ヲ採掘セハ利得ヲ收メ得ヘキヲ認ムルヲ得ス(中略)然レハ坑道ノ水没閉塞ハ被告等ノ不法行為ニ基因シタルト假定スルモ原告ニ損害ヲ生シタルコトヲ認ムヘカラサル以上ハ本項金額ノ請求モ亦理由ナシトシテ之ヲ排斥セサルヘカラス」ト判示セラレタレトモ凡ソ工作物ノ設備ハ其レ自體カ既ニ權利者ノ財産即チ利益ヲ成スモノニシテ他人カ其設備ヲ毀壞スレハ即チ之ニ因リテ利益ノ侵害即チ損害ヲ受クルコト固ヨリ當然ノ事理ニ屬シ其工作物ニ依テ更ニ收得スヘキ利益ノ存否及其程度如何ハ之ヲ喪失シタル場合ニ於テ損害ノ範圍ヲ量定スルノ資料トハナルヘキモ將ニ得ヘキ利益ノ存在セサルコトヲ以テ現ニ生シタル利益ノ侵害ヲ全然否定スルコトヲ得サルナリ況ンヤ坑道工作ノ如キハ必スシモ單ニ其地域ニ石炭存在セストノ一事ヲ以テ全ク其設備ノ價值ヲ無視スルヲ得ス而カモ石炭ノ存在セサルコトハ原院ノ推定ニ過キスシテ此ノ如キ事實ハ固ヨリ容易ニ計リ知ルヲ得サルモノニ屬スルニ於テオヤ然ルニ原判決カ漫然如上ノ推斷ヲ以テ坑道保存ノ利益ナシトシテ之ヲ閉塞スルモ損害ヲ生セストセラレタルハ即チ將來得ヘキ利益ノ喪失ナキコトヲ以テ現ニ生シタル損害ナキコトヲ判決セラレタルニ外ナラスシテ斯ノ如キハ畢竟此兩者ヲ混淆シ法理上許スヘカラサル觀念ノ下ニ事實ヲ確定シ以テ被上告人ノ損害賠償ノ責任ヲ不當

ニ免脱シタルノ違法アルモノト信スト云ヒ」第五點ハ原判決理由ノ第二ニ掲クル損害ハ被上告人ノ不法行為ノ爲メ採炭事業ニ供スル機械ヲ差押ラレタル爲メ事業ヲ中止セサルヲ得サルニ至リ坑道閉塞シタルヲ以テ此障害ヲ除去スルノ損害即チ現實ニ生シタル損害トシテ上告人ノ請求スル所ノモノナリ從テ原判決ハ上告人主張ノ如ク上告人カ差押前ニ於テ現實採炭事業ヲ爲シツツアリシヤ否ヤ坑道ノ閉塞ヲ來シタル事實存在スルヤ否ヤヲ判斷スレハ足ル其石炭ヲ採掘シテ利益ヲ收メ得ヘキヤ否ヤノ如キハ本件ニ何等ノ關係ナシ何トナレハ不法行為者タル被上告人ハ原狀回復ノ爲メ損害賠償ノ責任ヲ有シ其後上告人ニ利益ヲ生スルヤ否ヤノ如キハ何等被上告人ノ關知スル所ニアラサレハナリ然ルニ原判決ハ石炭存在スルモ採掘ノ結果利益ヲ收メ得ヘキ事實アルニアラサレハ上告人ニ請求權ナシトシ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ等點ヲ判斷セサル不法アルト共ニ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ然レトモ上告人ハ水没閉塞シタル坑道ヲ將來採掘ノ爲メ必要ナルモノナリト主張シ其復舊ニ要スル費用金三千四百二十九圓三十四錢ヲ之レカ損害額トシテ賠償ヲ請求セルモノナルコト記録上明白ニシテ即チ該坑道ヲ保存ノ價值アルモノトセルニ外ナラス故ニ原院ハ將來此坑道ニ依リ利益ヲ收メ得ヘキヤ否ヤヲ審按シ其利益ノ收メ得ヘキヲ認メサリシニ依リ之ヲ保存ノ價值ナキモノトシ隨テ坑道ノ水没閉塞ハ被上告人等ノ不法行為ニ原因シタルト假定スルモ之レカ爲メ上告人ニ何等ノ損害ナシト判定シ其理由ヲ明示セルモノナレハ是亦論旨ノ如キ不法アルモノニアラス

上來說明ノ如ク本上告ハ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條同第七十七條ニ從ヒ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○電車用救難具無效審判ノ件

明治四十一年(オ)第百八十二號
明治四十一年六月三日第二民事部判決

○判決要旨

一或物品ノ發明カ特許出願前既ニ書籍ニ掲載セラレ我國內ニ於ケル學校若クハ圖書館ニ備付ケ衆庶ノ閱覽繕讀シ得ラルヘキ状態ニ在ル場合ニ於テハ縱令其書籍カ外國文ヲ以テ記述セラレ未タ邦語ニ譯解シタルモノナシトスルモ將タ邦語又ハ公衆ノ了解シ得ル言語ヲ以テ帝國公衆ニ發表セラレタルコトナシトスルモ既ニ公ニ知ラレタルモノナリ

原告 特許局

被告 同崎豐治郎 訴訟代理人 松田源治

被上告人 東京鐵道株式會社

右法定代理人 幸田口元學

右當事者間ノ電車用救難具無效審判事件ニ付特許局カ明治四十一年三月五日言渡シタル審決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由第一點ハ原審決ハ不法ニ法律ヲ適用セシ違法アリ原審決理由ニ於テ「被請求人ノ提出セル參考書類千九百三年刊行「ジョン、ホール、ライダー」氏著「エレクトリック、トラクション」第二百五頁乃至第二百六頁記載ノ「チヅエル」式救難具ニ關スル事項及同附屬圖第七十八圖第七十九圖ノ實寫ニ依レハ被請求人申立ノ如ク其說明ハ不完全ナルヲ免レスト雖同附屬圖タル一ハ平常ノ場合ヲ示シ他ハ働作シタル場合ヲ表ハスカ故ニ少シク機械ニ關スル知識ヲ有スルモノハ其構成ヲ了解シ得ルニ難カラス而シテ右「エレクトリック、トラクション」ハ本件特許出願以前即チ明治三十七年六月東京帝國大學工科大学電氣學教室ニ於テ又明治三十七年八月及明治三十八年五月東京高等工業學校ニ於テ購入シ同月以後教授學生ノ閱覽ニ供セラレタルコトハ甲第二號證ニ依リテ明カナルヲ以テ本件特許出願

以前ニ於テ「チヅエル」式救難具ハ既ニ帝國領土内ニ於テ公知ニ屬セリト認メサルヲ得ス」云云ト説明シ上告人ノ有スル特許ヲ無効ト審決スレトモ外國書籍ニ記載セル事項カ帝國内ニ於テ公知ニ知ラルル爲メニハ該事項ニ關シ邦語ヲ以テ譯解シタルモノカ帝國内ニ於テ公刊セラルルカ或ハ該事項ニ關シ邦語或ハ公衆ノ了解シ得ル言語ヲ以テ帝國公衆ニ發表セラルルコトヲ要ス偶該事項ヲ記載セル書物カ帝國内ニ購入セラレタルカ如キハ何等公知ノ條件ヲ充ササルノミナラス假令該書籍ニ記載セル事項カ何人カニヨリ閱覽セラレ研究了解セラレタリトスルモ該事項ニ關シ其人カ研究シ且了解シタルコトヲ公表セラレサル限リハ公知ニ屬スト云フコトヲ得ス然ルニ原審決ハ之レニ反シ公知ニ屬スルモノト決定セシハ特許法第二條第四號ヲ不法ニ適用セシ違法アリト云フニ在リ

然レトモ本件電車用救難具ハ其特許出願以前ニ於テ既ニ東京帝國大學工科大学電氣學教室及ヒ東京高等工業學校ニ於テ購入シ教授學生間ニ閱覽セラルル「ジョン、ホール、ライダー」氏著「エレクターツク、トラクシヨ」中ニ掲記セラルル「チヅエル」式救難具ト同様ノモノナルコトハ原審決ノ認ムル所ニシテ本件ノ如ク書籍ニ載セ我國内ニ於ケル學校若クハ圖書館ニ備付ケラレ乘席ノ閱覽編讀シ得ラルル状態ニ在ル場合ニ於テハ設令其書籍カ外國文ヲ以テ記述セラレ邦語ニ譯解シタルモノナシトスルモ將タ又邦語又ハ公衆ニ了解シ得ル言語ヲ以テ帝國公衆ニ發表セラレタルコトナシトスルモ既ニ業ニ公ニ知ラレタルモノト謂フヘク本論旨ハ上告適法ノ理由トスルニ足ラス

同第二點ハ原審決ハ不法ニ法律ヲ適用セシ違法アリ原審決理由ノ説明ニ於テ「其ノ螺着軸ニ於テ螺狀彈機ヲ裝附セル救助網ニ於テ特ニ差異アルコトヲ主張スト雖其ノ差異タル救助網ノ先端ヲ軌道面ニ俯下壓押スヘキ螺狀彈機ノ位置ニ於テ本件特許救難具ハ救助網ノ螺着軸ニ之ヲ裝附シ「チヅエル」式救難具ハ別ニ車體ノ下部ニ裝置シテ救助網ヨリ直角ニ突出セル橫杆ヲ牽引スヘクナシタルコトニ止マリ螺狀彈機ヲ救助網ノ螺着軸ニ裝附スルコトニ依リ新ニ新效果ヲ生スヘキモノニアラス其ノ相違ノ點ノ如キハ何人モ施シ得ヘキ設計ニ屬シ特ニ發明ト認ムルコトヲ得ス」ト云フニアレトモ何故ニ其ノ相違ノ點カ新效果ヲ生セサルヤ又其相違ノ點ハ何故ニ各人ノ施シ得ヘキモノナルヤニ付理由ヲ説明セサルハ法則ヲ不當ニ適用セシ違法アリト云フニ在リ

然レトモ原審決ニ於テハ本件救難具ト「チヅエル」式救難具トハ共ニ其主要ノ部分乃チ平常ハ救助網ヲ鈎止シ橫杆ノ動搖ニヨリ救助網カ鈎止ヨリ外レテ其先端ヲ軌道面ニ俯下スヘクナシタルノ點ニ於テ兩者全然同一ノ構造ナルコトヲ説明シ唯螺狀彈機ヲ螺着軸ニ裝附シタルト別ニ車體ノ下部ニ裝置シタルノ差異ハ敢テ特殊ノ效果ヲ生スルモノニ非サルコトヲ說示シ因テ以テ本件救難具ヲ一ノ發明ト認ムルコトヲ得ストシタルモノナレハ本論旨モ亦其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○擔保品引渡請求ノ件 明治四十年(オ)第四百七十九號 明治四十二年六月四日第一民事部判決

○判決要旨

一 荷爲替ナルモノハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂入ト爲シタル爲替手形ヲ振出シテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取リ荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場合ノ擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ債權者ニ交付スルニ因リテ成立スル行爲ニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

一 荷爲替契約ニ依リ運送品ヲ目的トシテ質權ヲ設定セントスル場合ニハ荷主ハ運送人ヨリ交付ヲ受ケタル貨物引換證若クハ船荷證券ヲ把持シ運送品ヲ處分スルノ權利ヲ留保スル間ニ於テ其間接占有權ヲ質權者ニ移轉シ以テ質權ノ設定要件ヲ具備スルコトヲ得セシメサルヘカラス

一 貨物引換證又ハ船荷證券ヲ作成シタル場合ニ於テハ運送人ハ該證

券ニ依リテ間接占有ノ取得者タルコトヲ證明スル質權者ノ權利ヲ否認シ得サルモノトス故ニ荷モ其交付シタル證券ノ還付ヲ受クルニ於テハ請求者ハ直接ニ其交付ヲ受ケタル荷主ナルト荷主ノ處分ニ因リ正當ニ之ヲ把持スル質權者タルトニ論ナク運送品ノ占有ヲ解キ之ヲ其處分ニ委セサルヲ得ス

第一審 山形地方裁判所 第二審 宮城控訴院

上告人 株式會社新庄銀行
 右法定代理人 瀨川 清 訴訟代理人 岸本辰雄
 被上告人 松川 順平 訴訟代理人 遠藤吉三 眞
 從參加人 加藤卯八

右當事者間ノ擔保品引渡請求事件ニ付宮城控訴院カ明治四十年十月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ差戻ス

理由

荷爲替ノ性質○荷爲替契約ニ依ル間接占有權移轉ノ義務○質權者ニ對スル運送人ノ義務

上告論旨第一點ハ本件甲第二號證貨物引換證ニハ荷爲替金三百六十圓ヲ付シアルコトヲ明記シ又其貨物ハ該證ト引換ニ相渡スヘキ旨ヲ明約シアリ商法第三百三十四條ニハ貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル旨ヲ定メアリ第三百四十二條ニハ荷受人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ定メアリ第三百四十四條ニハ貨物引換證ヲ作リタル場合ニ於テハ之レト引換ニアラサレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得サル旨ヲ定メアリ以上ノ各規定ト貨物引換證記載ノ要項トヲ對照考查スルトキハ貨物引換證ナルモノハ名稱自體ニ於テ示スカ如ク證券ノ所在ト貨物ニ對スル權利ノ所在トヲ一致セシムル效用ヲ有スルモノニテ證券ノ所持ノミニ因リ貨物ニ對スル權利ヲ主張シ得ヘキモノト解釋セサル可ラス商法第三百三十五條ニハ裏書ニ依リテ貨物引換證ヲ讓渡シタルトキハ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有スル旨定メアルニ因リ貨物引換證ヲ正當ノ原因ニ因リテ所持スル所持人ハ其證券ノ所持ニ因リテ物ノ占有ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スヘキ法意タルコトヲ知了シ得ヘキモノトス本件上告人カ貨物引換證ノ所持人タルコト而シテ右貨物引換證ヲ所持スル所以ハ該運送品ニ荷爲替契約ヲ爲シ貨物ニ對シテ質權設定ノ契約ヲ爲シタルニ原因スルコトハ原判決モ之レヲ否定セサル所ナルカ故上告人ハ本件運送品ニ對シ有效ニ質權ヲ有スヘキモノナルニ原判決カ上告人ハ質權者ニアラス從テ質權ヲ喪失スヘキ理由無シトシテ本案請求ヲ排斥セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法

アリト思料スト云フニ在リ

按スルニ荷爲替ナルモノハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人トナシタル爲替手形ヲ振出しテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取り支拂人タル荷受人カ爲替金ヲ支拂ハサル場合ニ對スル擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル手形ノ受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證券又ハ船荷證券ヲ債權者ニ交付スルニ因リテ成立スルモノニシテ其擔保ノ性質カ動產質ナルコトハ其内容ニ照シテ自ラ明瞭ニシテ當院荷爲替ニ關スル判例ノ趣旨亦之ト異ナルコトナシ抑動產質權ノ設定ニハ債權者ヲシテ其占有ヲ得セシムルコトヲ必要條件トスルコトハ民法ノ規定上一點ノ疑ヲ容レズ然ルニ運送業者ノ保管ニ屬スル動產ハ其直接占有ニ屬シ荷主ハ間接ニ之ヲ占有スルニ止リ債權者ヲシテ占有ヲ得セシムルコトヲ得サルヲ以テ荷爲替契約ニ依リ運送品ヲ質權ノ目的トシ質權ヲ設定セントスル場合ニ於テハ荷主ハ運送人ヨリ交付ヲ受ケタル貨物引換證券若クハ船荷證券ヲ把持シ運送品ヲ處分スル權利ヲ留保スル間ニ於テ其間接占有權ヲ質權者ニ移轉シ質權者ヲシテ質權ノ設定要件ヲ具備スルコトヲ得セシムルヲ要ス而シテ質權設定者カ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ質權者ニ交付シ質權ノ成立ニ必要ナル占有ノ移轉ヲ證明シ必要ナル場合ニ於テハ債權者ヲシテ運送人ニ對シ其保管ニ係ル運送品上ニ質權ヲ實行スルコトヲ得セシムルコトハ顯著ナル慣習ニシテ此慣習ノ存スルコトハ亦從來當院判例ノ認ムル所ナリ故ニ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ作成シタル場合ニ於テハ運送人ハ其交付ヲ受ケタル荷主カ

荷爲替ノ性質○荷爲替契約ニ依ル間接占有權移轉ノ職務○質權者ニ對スル運送人ノ義務

荷爲替ノ性質○荷爲替契約ニ依ル間接占有權移轉ノ義務○質權者ニ對スル運送人ノ義務

質權設定ノ爲メ其證券ヲ利用シ質權ノ設定ニ必要ナル運送品ノ占有移轉ヲ證明スル場合アルコトヲモ豫期セルモノニシテ該證券ニ依リ間接占有ノ取得者ナルコトヲ證明スル質權者ノ權利ヲ否認スルヲ得サル者トス故ニ荷モ其交付シタル證券ノ還付ヲ受ケルニ於テハ請求者ハ直接ニ其交付ヲ受ケタル荷主ナルト荷主ノ處分ニ因リ正當ニ之ヲ把持スル質權者タルトハ運送品ノ占有ヲ解キ之ヲ其處分ニ付セサルヲ得ス何トナレハ運送人ハ間接占有者ノ爲ニ運送品ヲ占有スル者ニシテ自己ノ爲メニスル者ニ非サルヲ以テ他ニ別段ノ理由ナキ限ハ間接占有ノ移轉ヲ受ケタル質權者ニ對シテモ亦同一ノ義務アルヲ以テナリ本件ニ付原院ノ確定シタル事實ニ徴スレハ上告銀行ハ訴外小林甚三郎カ後藤彌八ヲ支拂人トシ上告人ヲ受取人トシテ振出シタル爲替手形ノ所持人ニシテ甚三郎カ其擔保トシテ被告上告人ヨリ同人ニ交付シタル立米百俵ニ對スル貨物引換證券ノ交付ヲ受ケ現ニ之ヲ把持シ同貨物ノ間接占有權ヲ行フ者ナルコトヲ證明スル場合ニ在ルヲ以テ上告人ハ前説明ノ如ク係爭立米百俵ノ上ニ質權ヲ有スル者ト謂ハサルヲ得ス故ニ原院カ現行商法ニハ此ノ如キ質權設定ヲ認メタル規定ナシトノ理由ノミニ依リ直ニ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ結局上告論旨ノ如キ不法アルヲ免レサルモノトス以上説明スルカ如ク上告ハ其理由アルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省キ民事訴訟法第四百四十七條第一項第四百四十八條第一項ニ依リ主文ノ如ク判決ス

○立米賣買代金返還並損害賠償請求ノ件

明治四十一年(オ)第百七十九號
明治四十一年六月四日第一民事部判決

○判決要旨

一 契約ニ因ル保證債務ニハ契約ノ解除ニ因リテ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ其給付シタル物ノ返還ヲ請求スル場合ノ保證ヲ包含セ

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院

上告人 三田周助 訴訟代理人 佐藤半三郎 田中秀四郎

被上告人 橋本久次郎

右當事者間ノ立米賣買代金返還並損害賠償請求事件ニ付東京控訴院カ明治四十一年三月十六日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ一部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

契約ニ因ル保證債務ノ範圍

上告ノ趣旨ハ原審ニ於テ訴外谷田海備三郎ト被上告人間ノ立木賣買契約ニ對シ上告人三田周助ノ負擔シタル保證義務ヲ二箇ノ場合ニ區分シ契約解除ノ結果原狀回復即チ代金ノ返還ニ付テハ保證ノ義務ナキモ賣買契約ノ不履行ニ基テ損害要償ノ責ハ免レサルモノトナシ上告人ニ對シ金千圓ヲ賠償スヘシトノ判決ヲ下セリ然ルニ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復即チ代金返還ノ義務ト雖モ亦タ義務不履行ニ基クモノナルカ故ニ義務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ場合ト敢テ差異アルヘキ筈ナキナリ從テ原狀回復ノ場合ニ保證ノ責ナシトセシ以上ハ損害賠償ノ場合ニ亦タ同一ノ判定ヲ下ササル可カラサルニ原判決ノ茲ニ出テサルハ乃チ理由齟齬ノ判決タルヲ免レヌト云フニ在リ

然レトモ債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求ハ契約ヲ原因トスレトモ契約ノ解除ニ因リテ當事者ノ一方が相手方ニ對シテ其給付シタル物ノ返還ヲ請求スルハ契約ヲ以テ其原因トセサルコト固ヨリ論ヲ待タズ然レハ則チ契約ニ因ル保證債務ニハ當然契約以外ノ原因ヨリ生スル債務ニ關スル保證債務ヲ包含セサルモノト謂ハサルヲ得ヌ是故ニ原判決ハ理由齟齬ノ不法アラサルノミナラス原院ハ本訴ノ保證契約ニハ契約解除ノ場合ニ於ケル保證債務ヲ包含セサル事實ヲ判斷シタルニ外ナラサレハ本論旨ハ歸スル所事實ノ判斷ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

明治四十一年八月十七日著作
 明治四十一年八月二十日發行

定價金貳拾參錢

著作權所有

大審院

東京市神田區錦町貳丁目貳番地

發行者 中央大學

東京市麴町區內幸町壹丁目參番地

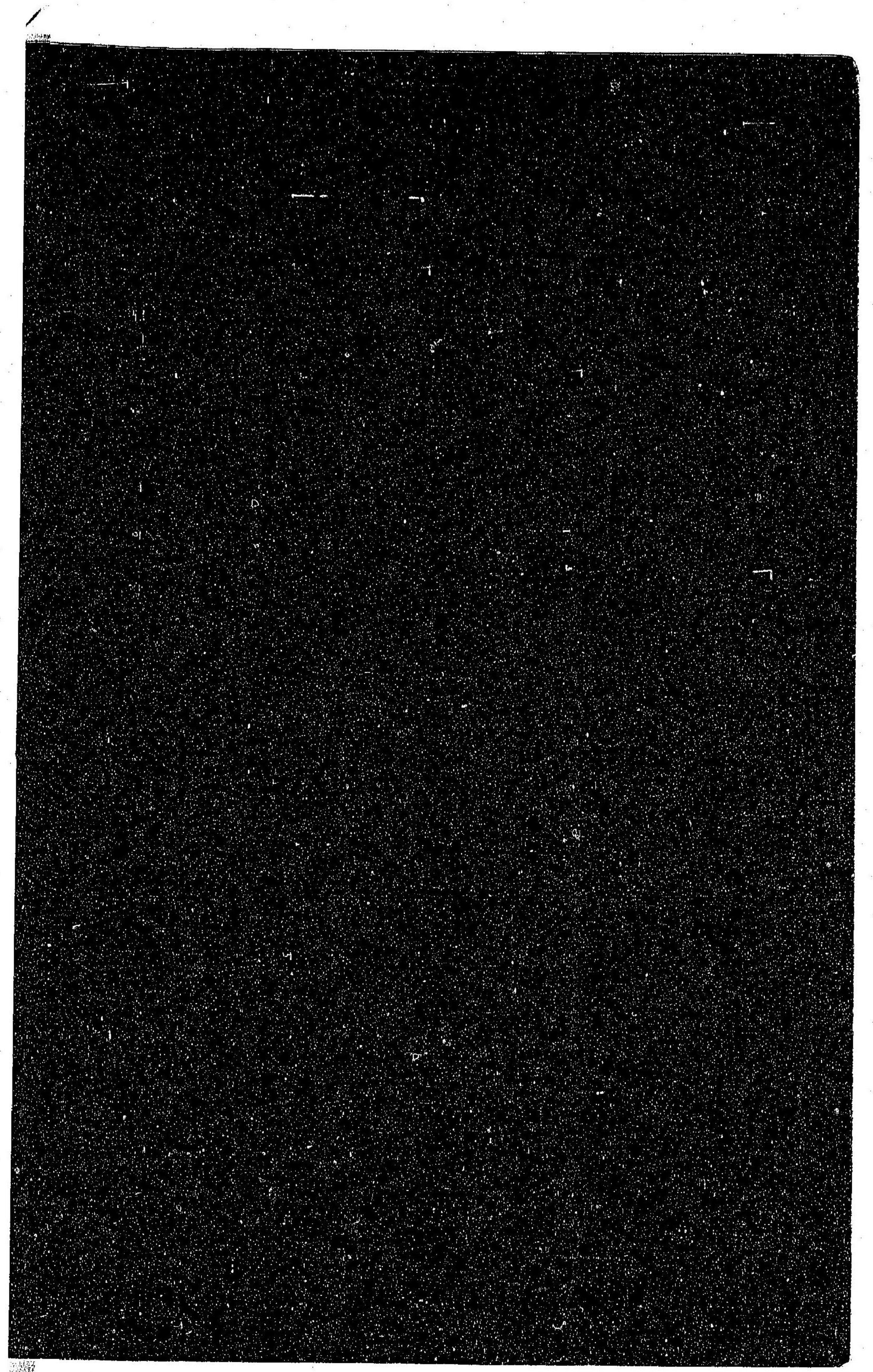
代表者 菊池武夫

東京市麴町區下六番町拾七番地

印刷者 同勞舎 松澤 虹三

14.7

1



14.7

禁電子式複写

35.21